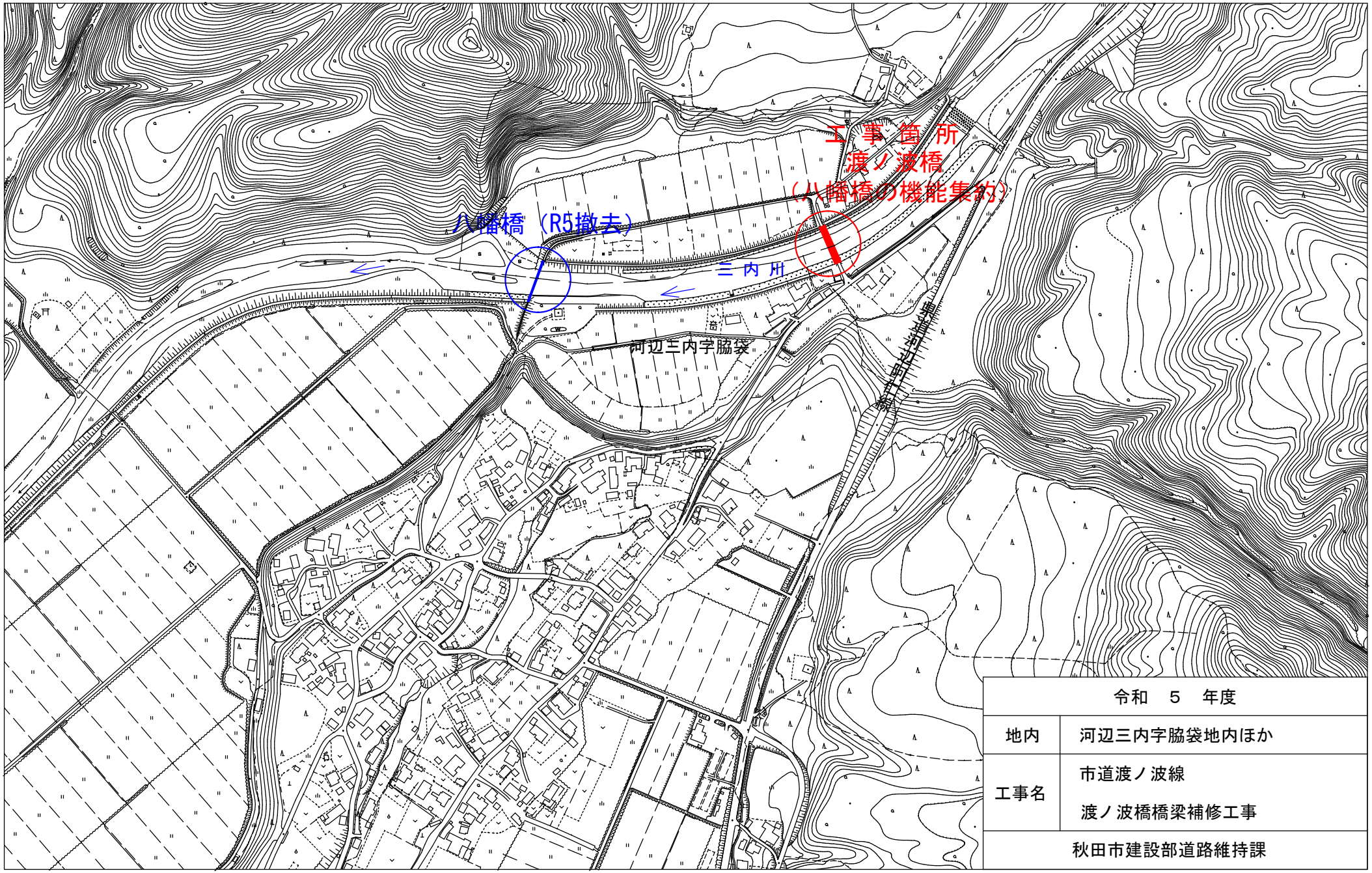
設　　計　　書

工　種	道　橋　修
工事番号	第　13　号

課長		主席主査		担当		担当リーダー		設計担当者　道路維持課　橋りょう 担当 内　線　（　　） 印

年　度	令　和　5　年　度	作成年月日	令和　6　年　3　月　1　日
工　事　名	市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事	工事概要	
		渡ノ波橋	
		橋長:Ｌ＝４０．４６ｍ　全幅員:Ｗ＝３．８ｍ	
施工位置	河辺三内字脇袋地内ほか	橋梁補修工（コンクリート部材）	１構造物
		橋面防水工	Ａ＝１１９m2
		橋面舗装工	Ａ＝１１９m2
設計金額		伸縮継手工	Ｌ＝９ｍ
		橋梁用防護柵工	Ｌ＝８２ｍ
財源区分	［国　補］・県　補・市　単		
施工期日	令和６年８月３０日まで	主任監督員	（　　）
		工事監督員	（　　）

箇　所　図



令和　５　年度	
地内	河辺三内字脇袋地内ほか
工事名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事
秋田市建設部道路維持課	

工　事　名：市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事
施 工 箇 所：河辺三内字脇袋地内ほか

特記仕様書（施工条件明示一覧表）

・下記の明示事項・条件及び内容のチェック印該当欄は、共通仕様書等に記載されている制約事項以外について明示するものである。
・明示事項に変更が生じた場合及び明示されていない制約等が発生した場合は、監督員と別途協議し適切な措置を講ずるものとする。
・別途協議とは、設計・現場説明又は打合簿等により協議するものとする。

明　示　項　目	明　示　事　項	条　件　及　び　内　容
工程関係	□他工事との工程調整の必要あり	□調整項目　□資材等の流用　□仮設及び工事用道路等の調整　□建設機械等の調整 □施工箇所　□施工順序の調整　□別途協議 □その他（　　）
	☒施工時期、施工時間及び施工方法の制限あり	☒制限する工種名（橋梁付属物工、舗装工）
		☒施工時期及び施工時間（上記工種施工時）
		☒施　工　方　法（全面通行止め）
	☒他機関との協議が未完了	☒協議が必要な機関名（河川管理者）
		☒協　議　内　容（河川法第２４条および２６条）
		☒協議完了見込時期（5月上旬）
	☒占用物件の確認の必要あり	☒占用物件名　☒電気　☒電話　☒上水道　☒下水道　☒ガス　□その他（　　）
		☒物件の確認　□確認済　☒未確認
	□その他（契約工期）	□その他（　　）
用地関係	□用地および補償物件の未処理箇所あり	□未処理箇所　□別添図　□No.　～　□別途協議
		□完了見込時期　□令和　年　月　旬頃　□別途協議
	□仮設ヤードあり	□仮設ヤード　□官有地　□民有地　□その他（　　）　□別途協議
		□仮設ヤード使用期間（令和　年　月　日　～　令和　年　月　日）
		□現場からの運搬距離（Ｌ＝　ｋｍ）
		□使用条件・復旧方法（　　）
	□その他（　　）	□その他（　　）
工事用道路関係	□一般道路（搬入路）の使用制限あり	□進入（搬入）経路　□別添図等　□その他（　　）　□別途協議
		□使用期間の制限内容　（　　）
	□仮設道路の設置条件あり	□使用中及び使用後の措置　□別添図等　□その他（　　）　□別途協議
		□用地及び構造　□別添図等　□その他（　　）　□別途協議
		□安全施設　□別添図等　□その他（　　）　□別途協議
	□その他（　　）	□その他（　　）

秋田市建設部

明　示　項　目	明　　示　　事　　項	条　　件　　及　　び　　内　　容	
公害対策関係	☒施工方法の制限あり	☒制限項目	☒騒音　☒振動　□水質　☒粉じん　☒排出ガス　□その他（　　）
		□施工方法	□指定工法（　　）　□別途協議　□その他（　　）
		□施工時期	□令和　　年　　月　　旬頃　□別途協議
	□事業損失防止に関する調査あり	□調査項目	□騒音測定　□振動測定　□水質調査　□近接家屋の事前・事後調査 □地盤沈下測定　□地下水位等の測定 □その他（　　）
		□調査方法	□別添資料　□別途協議　□その他（　　）
		□調査費	□計上あり　□別途協議　□その他（　　）
	□その他（　　）	□その他（　　）	
安全対策関係	☒交通安全施設等の指定あり	☒交通安全施設等の配置	□別添図面　☒別途協議　□その他（　　）
		☒交通誘導員の配置	□別添図面　☒別途協議 ☒配置員種別（交通誘導警備員 B） ☒配置人員数（昼間）（２人/日・４日・計８人） □昼間勤務交代要員あり □配置人員数（夜間）（　　人/日・　　日・計　　人） □夜間勤務交代要員あり □その他（　　）
	□近接公共施設等に対する制限	□施工時間の制限（　　）	
		□工法の制限あり ・近接公共施設等の配置（□鉄道　□電気　□電話　□水道　□ガス　□その他（　　）） ・制限を受ける工種　（　　） ・制　限　内　容　（　　）	
	□土砂崩落・発破作業に対する防護施設等に指定あり	□安全防護施設等の配置	□別添図面　□別途協議　□その他（　　）
		□保安要員の配置	□別添図面　□別途協議　□その他（　　） □配置員種別（　　） □配置人員数（　　人/日・　　日・計　　人）
	□有毒ガス・酸素欠乏等の対策	□換気設備等の配置	□別添図面　□別途協議　□その他（　　）
		□危険防止対策の工法	□別添図面　□別途協議　□その他（　　）
	□イメージアップ経費適用工事	□イメージアップの内容（　　）	
	□その他（　　）	□その他（　　）	
排水工関係	□濁水、湧水等の排水に制限あり	□項目及び基準値（　　）	
	□水質調査等の必要あり	□調査項目（　　）	
	□その他（　　）	□その他（　　）	

明　示　項　目	明　　示　　事　　項	条　　件　　及　　び　　内　　容	
建設発生土・建設廃棄物関係	□建設発生土 ※投棄処分および再生処分が選択されている場合において、当該処分（受入）地へ運搬しない場合、また、発生土の性状を十分見極め再利用可能な場合は、監督員と別途協議すること。	□処分方法	□投棄処分　□他工事利用　□指定処分　□自由処分 □再生処分　□その他（　　）
		□処分（受入）地	□別添図等　□別途協議　□その他（　　） □場所（　　）
		□処分地の処理条件	□押土整地　□その他（　　）
		□処理（受入）費等計上あり	□処理（受入）費　□押土整地　□その他（　　）
		□現場からの運搬距離（Ｌ＝　　ｋｍ）	
	☒ｺﾝｸﾘｰﾄ塊 ※再生（中間）処分場および最終処分場が選択されている場合において、当該処分場へ運搬しない場合は、監督員と別途協議すること。	☒処分地	☒再生（中間）処分場（河辺大張野地内）　□最終処分場（　　） □別添図書　□別途協議 □その他（　　）
		☒処理（処分）費計上あり	☒処理（処分）費　□その他（　　）
		☒現場からの運搬距離（Ｌ＝８．６ｋｍ）	
	☒ｱｽﾌｧﾙﾄ殻 ※再生（中間）処分場および最終処分場が選択されている場合において、当該処分場へ運搬しない場合は、監督員と別途協議すること。	☒処分地	☒再生（中間）処分場（浜田地内）　□最終処分場（　　） □別添図書　□別途協議 □その他（　　）
		☒処理（処分）費計上あり	☒処理（処分）費　□その他（　　）
		☒現場からの運搬距離（Ｌ＝２９．１ｋｍ）	
	□木材 ※再生（中間）処分場および最終処分場が選択されている場合において、当該処分場へ運搬しない場合は、監督員と別途協議すること。	□処分地	□再生（中間）処分場（　　）　□最終処分場（　　） □別添図書　□別途協議 □その他（　　）
		□処理（処分）費計上あり	□処理（処分）費　□その他（　　）
		□現場からの運搬距離（Ｌ＝　　ｋｍ）	
	□汚泥 ※再生（中間）処分場および最終処分場が選択されている場合において、当該処分場へ運搬しない場合は、監督員と別途協議すること。	□処分地	□再生（中間）処分場（　　）　□最終処分場（　　） □別添図書　□別途協議 □その他（　　）
		□処理（処分）費計上あり	□処理（処分）費　□その他（　　）
		□現場からの運搬距離（Ｌ＝　　ｋｍ）	
	□その他（　　）	□処分地	□再生（中間）処分場（　　）　□最終処分場（　　） □別添図書　□別途協議　□その他（　　）
		□処理（処分）費計上あり	□処理（処分）費　□その他（　　）
		□現場からの運搬距離（Ｌ＝　　ｋｍ）	
		□その他（　　）	

明　示　項　目	明　　示　　事　　項	条　　件　　及　　び　　内　　容
仮設備関係	□仮設備の設置条件あり	□使用期間（　　）
		□借地条件（　　）
		□転用あり（　　）
		□兼用あり（　　）
		□引継あり（　　）
	□仮設物の構造及び施工方法の指定	□構造及び設計条件　□別添図等　□その他（　　）　□別途協議
		□施工方法（　　）
	☒その他（足場工）	☒その他　（吊足場）
薬液注入関係	□薬液注入工法等の指定あり	□工法区分（　　）
		□材料種類（　　）
		□施工範囲（　　）
		□削孔関係（　　）
		□注入量　（　　）
		□その他　（　　）
	□提出書類あり	□工法関係（　　）
		□材料関係（　　）
	□確認事項あり	□注入量　□注入の管理　□注入の効果　□その他（　　）
	□その他（　　）	□その他　（　　）
地盤改良関係	□工法等の指定あり	□工法区分（　　）
		□材料種類（　　）
		□施工範囲（　　）
		□その他　（　　）
	□提出書類あり	□工法関係（　　）
		□材料関係（　　）
		□試験関係（　　）
	□確認事項あり	□配合　□現場 CBR 値　□その他（　　）
	□その他（　　）	□その他（　　）
工事支障物件関係	□工事支障物件あり	□電気　□移設時期（令和　年　月　日頃　□別途協議）
		□電話　□移設時期（令和　年　月　日頃　□別途協議）
		□上水道　□移設時期（令和　年　月　日頃　□別途協議）
		□下水道　□移設時期（令和　年　月　日頃　□別途協議）
		□ガス　□移設時期（令和　年　月　日頃　□別途協議）
		□有線　□移設時期（令和　年　月　日頃　□別途協議）
		□その他（　　）　□移設時期（令和　年　月　日頃　□別途協議）

明　示　項　目	明　　示　　事　　項	条　　件　　及　　び　　内　　容	
再生材使用関係	☒再生材使用の指定あり	☒再生材の種類	☒再生アスコン　☒再生路盤材　☒再生クラッシャーラン ☐その他（　　）
		☒再生材が使用できない場合の措置	☐新材に変更　☒別途協議 ☐その他（　　）
	☒再生ｱｽｺﾝへの溶融スラグの混入	☒溶融スラグ混入の有無	☒有　☐無　☐その他（　　）
		☒溶融スラグ混入合材の種類	☒再生密粒度アスコン(13)　☐再生密粒度アスコン(20) ☐再生粗粒度アスコン(13)　☐再生粗粒度アスコン(20) ☐その他（　　）
		☒溶融スラグ混入が使用できない場合	☐新材に変更　☐その他（　　） ☒別途協議
	☒再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝの規格	☒ＲＣ－４０ ☐ＲＣ－８０	☒粒度範囲は、舗装再生便覧の「再生クラッシャーランの望ましい粒度範囲」の規格に適合するものとする。
			☒再生クラッシャーランの粒度について、確認できる試験結果または品質を証明する資料を、使用する前に監督員に提出すること。
	☐秋田県認定リサイクル製品の使用	☐秋田県認定リサイクル製品を使用する 種類：☐歩車道境界ブロック（　　） ☐鉄筋コンクリートU型側溝（　　） ☐鉄筋コンクリートU型側溝蓋（　　） ☐自由勾配側溝（　　） ☐自由勾配側溝蓋（　　） ☐鉄筋コンクリートベンチフリューム（　　） ☐鉄筋コンクリート排水フリューム（　　）	
	※溶融スラグ入りプレキャストコンクリート製品またはフライアッシュ入りプレキャストコンクリート製品	☐秋田県認定リサイクル製品を使用するように努める	☐種類（上記以外のプレキャスト工場製品）
		☐秋田県認定リサイクル製品が使用できない場合	☐別途協議 ☐その他（　　）
	☐その他（　　）	☐その他（　　）	
適用条件	☒	☒秋田市土木工事共通仕様書（令和５年１２月１日以降適用）を適用 ☐上記仕様書の部分改訂の内容も含む（最新改訂 令和　　年　　月　　日） ☐土木構造物設計マニュアル(案)　　編を適用 ☐その他（　　）	
ＣＯＲＩＮＳ登録	☒　　※請負代金額が 500 万円以上の場合	☒秋田市土木工事共通仕様書に基づき、工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）の登録を行うこと	
再生資源利用計画書	☒	☒ＣＯＢＲＩＳシステムを用いて再生資源利用（促進）計画書（実施書）を作成し、契約締結後１４日以内に監督員へ提出すること。また、受注者は、再生資源利用（促進）計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げること。	

明　示　項　目	明　　示　　事　　項	条　　件　　及　　び　　内　　容
現場代理人	☒	☒兼務を認める（常駐義務緩和の要件を満たす場合） ☐兼務を認めない（契約金額が減額になった場合においても、現場代理人の兼務は認めません）
監理(主任)技術者	☐ ※請負代金額が 4,000 万円以上の場合	☐請負契約の締結の翌日から令和　　年　　月　　日までは監理(主任)技術者の専任を要しない。 ☐請負契約の締結後、監督員と協議して定めた現場施工に着手するまでの期間(現場事務所の設置、資機材の搬入、仮設工事等が開始されるまでの間)については、監理(主任)技術者の工事現場への専任を要しない。 ☐工事完成後、発注者が工事の完成を確認した旨、受注者へ通知した日以降、事務手続きおよび後片付け等のみが残っている期間については、監理(主任)技術者の工事現場への専任を要しない。
担い手確保関係	☒週休二日制モデル工事 （受注者希望型）	☒本工事は、秋田市建設部週休二日制モデル工事の試行対象案件である。 ☒受注者は、受注後速やかに当該モデル工事の希望の有無について、工事打合簿により、監督員と協議するものとする。 ☒協議により試行する場合は、「秋田市建設部週休二日制モデル工事試行実施要領」に基づき、実施するものとする。
電子納品	☒工事完成図書	☒工事完成図書は電子納品とし、電子データは、「工事完成図書の電子納品等要領」に基づいて作成すること。電子媒体の提出部数は１部とする。なお、要領に記載のない項目の電子化および紙媒体による提出、または、電子納品によりがたい場合については、監督員と協議すること。
	☒工事検査	☒検査に必要な電子機器類の準備および検査時の機器操作は受注者が実施すること。
	☐その他（　　）	☐その他（　　）
その他	☐工事用機材の保管及び仮置きの必要あり	☐保管場所（　　）　☐期間（　　）　☐その他（　　）
	☐現場発生品あり	☐品名（　　）　☐数量（　　） ☐保管場所（　　）　☐その他（　　）
	☐支給品あり	☐品名（　　）　☐数量（　　）　☐引渡場所（　　） ☐時期（令和　　年　　月　　旬頃）　☐その他（　　）
	☐盛土材等工事間流用あり	☐運搬方法　☐受注者で運搬　☐受注者以外で運搬　☐別途協議　☐その他（　　） ☐引渡場所　☐別添図等　☐別途協議　☐その他（　　） ☐数量（　　） ☐運搬距離（Ｌ＝　　ｋｍ）
	☒法定外の労災保険の付保	☒本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。その保険証券等の写しを発注者に提出すること。
	☒その他（　　）	☒その他（本設計書の労務単価は、秋田県実施単価表（R6.3.1 以降適用（旧労務単価））に基づき積算しているが、契約後、受発注者協議により、秋田県実施単価表（R6.3.1 以降 第１回改定）の新労務単価を適用し、設計変更するものとする。なお、秋田県実施単価表（R6.3.1 以降 第１回改定）が更に改定となった場合は、秋田県実施単価表（R6.3.1 以降適用 最終改定）の新労務単価を適用し、設計変更するものとする。）

＝補足事項＝

・共通仕様書１－１－５１「工事測量」に基づいた測量結果について、契約締結後、３０日以内に監督員へ提出すること。また、その測量結果に基づき、現場と設計図書を照査し、数値等に差異が生じた場合についても、同期間内に監督員と協議することとする。その協議内容について必要があれば、設計変更の対象とする。

・本工事は橋梁付属物工、舗装工時に交通規制（全面通行止め）を予定しており、規制期間については契約締結後に協議する。

本工事費内訳書（本01）

工事名	市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事	事業区分 工事区分	道路維持･修繕 橋梁保全工事

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
橋梁保全工事		式	1				
工場製作工		式	1				
落橋防止装置製作工		式	1				
製作加工	防蝕ｱﾝｶｰ	式	1				内　1号
工場純工事費		式	1				
工場管理費		式	1				
（工場製作原価）		式	1				
橋梁保全工事		式	1				
舗装工		式	1				
路面切削工		式	1				
路面切削	施工区分・平均切削深さ:全面切削5cm、ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装	m2	119				単　1号
殻運搬(路面切削)	殻種別:ｺﾝｸﾘｰﾄ殻(無筋)	m3	6				単　2号
殻処分	殻種別:ｺﾝｸﾘｰﾄ殻(無筋)	m3	6				単　3号

秋田市建設部

本工事費内訳書（本01）

工事名	市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事	事業区分 工事区分	道路維持･修繕 橋梁保全工事

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
橋面防水工		式	1				
橋面防水	防水工種類:塗膜防水	m2	119				単　4号
舗装打換え工		式	1				
表層	材料種類:各種(2.30以上2.40t/m3未満),材料規格:②密粒As(13)改質Ⅱ型,舗装厚:40mm,平均幅員:3.0m超	m2	119				単　5号
表層	材料種類:各種(2.30以上2.40t/m3未満),材料規格:②密粒As(13)改質Ⅱ型,舗装厚:30mm,平均幅員:3.0m超	m2	119				単　6号
舗装工		式	1				
舗装打換え工		式	1				
舗装版切断	舗装版種別:ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版,舗装厚:50mm	m	6				単　7号
舗装版破砕	舗装版種別:ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版,舗装版厚:5cm	m2	12				単　8号
殻運搬	殻種別:舗装版破砕	m3	1				単　9号
殻処分	殻種別:ｱｽﾌｧﾙﾄ殻	m3	1				単　10号
不陸整正	RC-40	m2	12				単　11号
表層	材料種類:再生密粒度ｱｽｺﾝ(13),舗装厚:50mm,平均幅員:3.0m超	m2	12				単　12号

秋田市建設部

本工事費内訳書（本01）

工事名	市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事	事業区分 工事区分	道路維持･修繕 橋梁保全工事

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
区画線工		式	1				
区画線工		式	1				
ﾍﾟｲﾝﾄ式区画線	施工方法区分:ﾍﾟｲﾝﾄ式 溶剤型,規格･仕様区分:実線 15cm,塗料規格:常温	m	8				単　13号
橋梁付属物工		式	1				
伸縮継手工		式	1				
埋設ｼﾞｮｲﾝﾄ補修	ｼﾞｮｲﾝﾄ規格:埋設,伸縮装置断面積:0.028m2,工種:補修,取付部位:舗装厚内型,工法区分:補修,補修形式:1車線相当	m	9				単　14号
落橋防止装置工		式	1				
落橋防止装置		箇所	16				単　15号
防蝕ｱﾝｶｰ削孔		式	1				内　2号
防蝕ｱﾝｶｰ装置設置		箇所	16				単　16号
縁端拡幅工		式	1				
縁端拡幅		箇所	4				単　17号
水切り設置工		式	1				

秋田市建設部

本工事費内訳書（本01）

工事名	市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事	事業区分 工事区分	道路維持･修繕 橋梁保全工事

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
水切り設置	軟質PVC	式	1				内　3号
排水施設工		式	1				
排水桝	SUS304φ127	基	4				単　18号
排水管		箇所	8				単　19号
橋梁用防護柵工		式	1				
橋梁用防護柵	部材交換	m	82				単　20号
橋梁補修工		式	1				
橋梁地覆補修工		式	1				
地覆補修		箇所	4				単　21号
ひび割れ補修工		式	1				
低圧注入工法	1構造物当り補修延べ延長:25m未満,材料種類:ｴﾎﾟｷｼ樹脂	構造物	1				単　22号
断面修復工		式	1				
左官工法	1構造物当り修復延べ体積:0.1m3未満,材料種類:ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ,鉄筋ｹﾚﾝ･鉄筋防錆処理:有り	構造物	1				単　23号

秋田市建設部

本工事費内訳書（本01）

工事名	市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事	事業区分 工事区分	道路維持･修繕 橋梁保全工事

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
仮設工		式	1				
足場工		式	1				
吊足場		式	1				内　4号
橋梁点検車		台・日	4				単　24号
交通管理工		式	1				
交通誘導警備員		人日					単　25号
直接工事費		式	1				
共通仮設		式	1				
共通仮設費		式	1				
技術管理費		式	1				
鉄筋探査(下向き)		式	1				内　5号
鉄筋探査(横向き)		式	1				内　6号
共通仮設費（率計上）		式	1				

秋田市建設部

本工事費内訳書（本01）

工事名	市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事	事業区分 工事区分	道路維持･修繕 橋梁保全工事

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
純工事費		式	1				
現場管理費		式	1				
（現場原価）		式	1				
工事原価		式	1				
一般管理費等		式	1				
工事価格		式	1				
消費税額及び地方消費税額		式	1				
工事費計		式	1				

秋田市建設部

参　考　図　書

工事番号・工事名	R05 市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事

「留意事項」

1　参考図書は「真摯で機動性のある見積り」を目的に提示するものである。

2　参考図書は、発注者が用いた積算資料を、参考として提示するもので、契約上拘束するものではない。

3　参考図書の内容は、設計図書の変更あるいは誤びゅうによるもの以外、設計変更の対象としない。

秋田市建設部

一式当り内訳書

単価使用年月	2024.03
歩掛適用年月	2024.03
労務調整係数	1.000-00000　0.0　0

内　1号	製作加工	防蝕ｱﾝｶｰ					
名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
材料費(組)		組	16				単　26号
合計							

一式当り内訳書

単価使用年月	2024.03
歩掛適用年月	2024.03
労務調整係数	1.000-00000　0.0　0

内　2号	防蝕ｱﾝｶｰ削孔						
名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
削孔		m	6.88				単　37号
合計							

秋田市建設部

一式当り内訳書

単価使用年月	2024.03
歩掛適用年月	2024.03
労務調整係数	1.000-00000　0.0　0

内　3号	水切り設置	軟質PVC

名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
材料費(m)		m	80.8				単　40号
水切り設置工		式	1				単　41号
合計							

一式当り内訳書

単価使用年月	2024.03
歩掛適用年月	2024.03
労務調整係数	1.000-00000　0.0　0

内　4号	吊足場

名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
足場工(吊足場)	17.4m2,30日	m2	17.4				単　53号
板張防護工	設置･撤去･賃料,1月,両側朝顔	m2	17.4				単　54号
ｼｰﾄ張防護工	設置･撤去･賃料,1月,両側朝顔	m2	17.4				単　55号
合計							

秋田市建設部

一式当り内訳書

単価使用年月	2024.03
歩掛適用年月	2024.03
労務調整係数	1.000-00000　0.0　0

内　5号	鉄筋探査(下向き)						
名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
鉄筋探査		m2	3.5				単　58号
合計							

一式当り内訳書

単価使用年月	2024.03
歩掛適用年月	2024.03
労務調整係数	1.000-00000　0.0　0

内　6号	鉄筋探査(横向き)						
名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
鉄筋探査		m2	7.2				単　59号
合計							

秋田市建設部

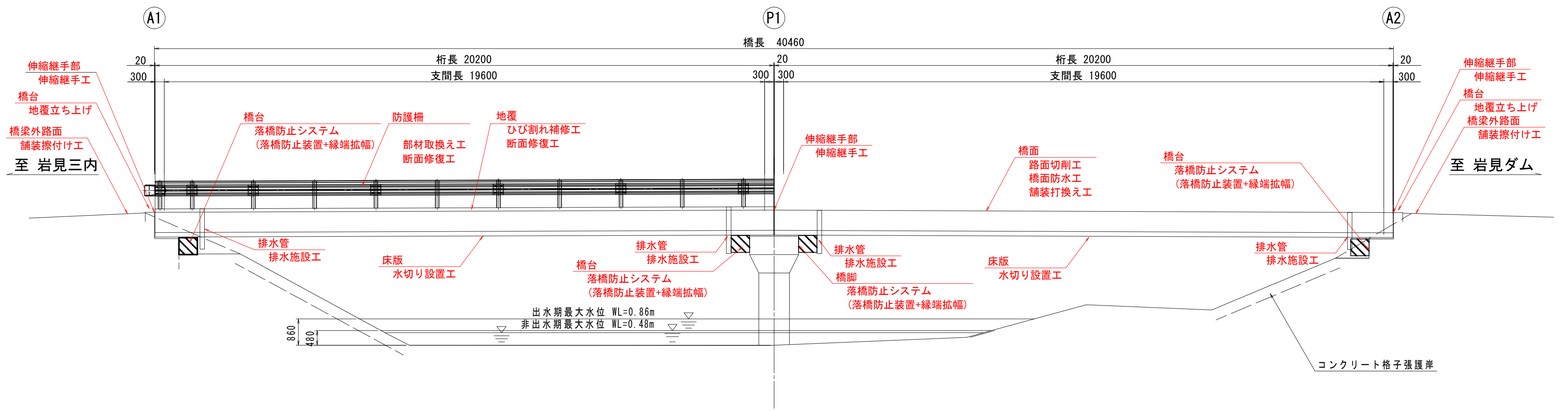
数量総括表

工事名 ： 市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事

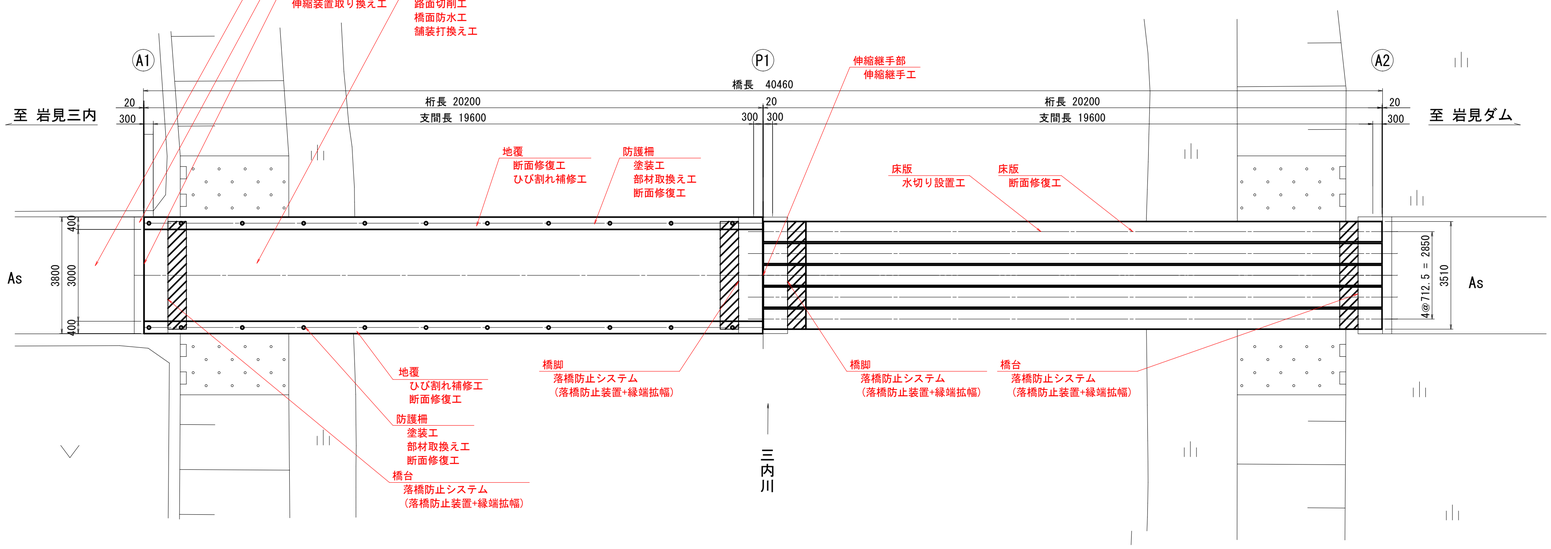
工種	種別	細別	規格・条件	単位	数量	積算値
橋梁保全工事						
工場製作工	落橋防止装置製作工	製作加工	防蝕ｱﾝｶｰ、鋼材規格:S35C	式	1.0	1.0
舗装工	路面切削工	路面切削	ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装、t=50mm	m2	118.9	119.0
		殻運搬(路面切削)	殻種別:ｺﾝｸﾘｰﾄ殻(無筋)、運搬距離:8.6km、河辺大張野地内	m3	5.9	6.0
		殻処分	殻種別:ｺﾝｸﾘｰﾄ殻(無筋)	m3	5.9	6.0
	橋面防水工	橋面防水	防水工種類:塗膜防水、ﾄﾞﾚｰﾝ材15φ、69.6m/100m2、目地材:38.4m/100m2	m2	118.9	119.0
	舗装打換え工	表層(橋梁部)	②密粒度As(13)改質Ⅱ、t=40mm	m2	118.9	119.0
		表層(橋梁部)	②密粒度As(13)改質Ⅱ、t=30mm	m2	118.9	119.0
		舗装版切断	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版、t=50mm	m	6.0	6.0
		舗装版破砕	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版、t=5cm	m2	12.0	12.0
		殻運搬	殻種別:ｱｽﾌｧﾙﾄ殻、運搬距離:29.1km、浜田地内	m3	0.6	1.0
		殻処分	殻種別:ｱｽﾌｧﾙﾄ殻	m3	0.6	1.0
		不陸整正	RC-40	m2	12.0	12.0
		表層(取付道路部)	再生密粒度As(13)、t=50mm	m2	12.0	12.0
区画線工	区画線工	ﾍﾟｲﾝﾄ式区画線	実線15cm	m	8.0	8.0
橋梁付属物工	伸縮継手工	埋設ジョイント補修	埋設型	m	9.0	9.0
	落橋防止装置工	落橋防止装置	防蝕ｱﾝｶｰ、鋼材規格:S35C	箇所	16.0	16.0
		防蝕ｱﾝｶｰ削孔	削孔径φ50、削孔深さ:430mm	式	1.0	1.0
		防蝕ｱﾝｶｰ装置設置	防蝕ｱﾝｶｰ、鋼材規格:S35C	箇所	16.0	16.0
	縁端拡幅工	縁端拡幅	削孔径:φ36、削孔深さ:385mm、接着剤:ｴﾎﾟｷｼ系、鉄筋規格:SD345、ｺﾝｸﾘｰﾄ規格:普通24-8-25(W/C≦55)	箇所	4.0	4.0
	水切り設置工	水切り設置	軟質PVC L=80.8m (40.4m＋40.4m)	式	1.0	1.0
	排水施設工	排水桝	SUS304φ127	基	4.0	4.0
		排水管	管規格:鋼管、L=1.54m:4箇所、L=1.34m:4箇所	箇所	8.0	8.0
	橋梁用防護柵工	橋梁用防護柵	部材交換 ビーム、袖ビーム、嵩上げ支柱	m	82.2	82.0
橋梁補修工	橋梁地覆補修工	地覆補修	ｺﾝｸﾘｰﾄ規格:普通24－8－25(W/C≦55) 鉄筋規格:SD345	箇所	4.0	4.0
	ひび割れ補修工	低圧注入工法	1構造物当り補修延べ延長:25m未満、材料種類:ｴﾎﾟｷｼ樹脂	構造物	1.0	1.0
	断面修復工	左官工法	1構造物当り修復延べ体積:0.1m3未満、材料種類:ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ、鉄筋ｹﾚﾝ・鉄筋防錆処理:有り	構造物	1.0	1.0
仮設工	足場工	吊足場	両側朝顔、板張＋ｼｰﾄ養生	m2	17.4	17.4
		橋梁点検車		台・日	4.0	4.0

渡ノ波橋 補修一般図

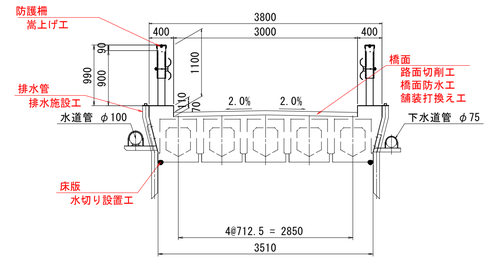
側面図 S=1/100



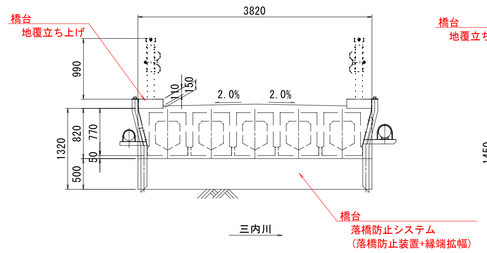
平面図 S=1/100



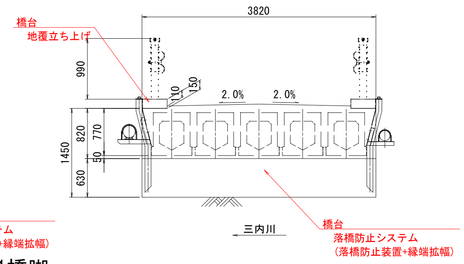
上部工断面図 S=1/50



A1橋台正面図 S=1/50

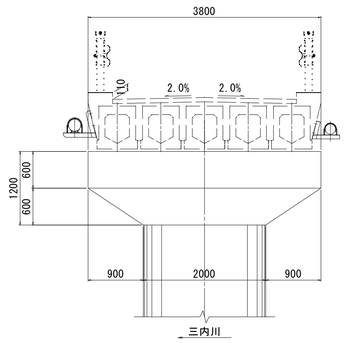


A2橋台正面図 S=1/50

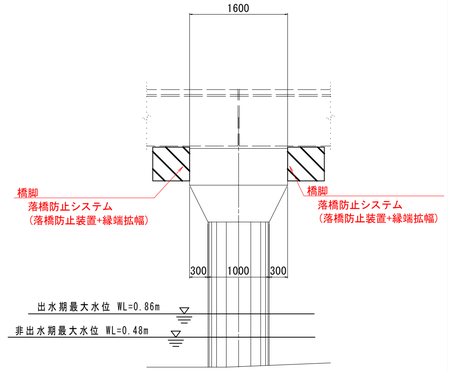


P1橋脚 S=1/50

橋脚断面図



橋脚側面図



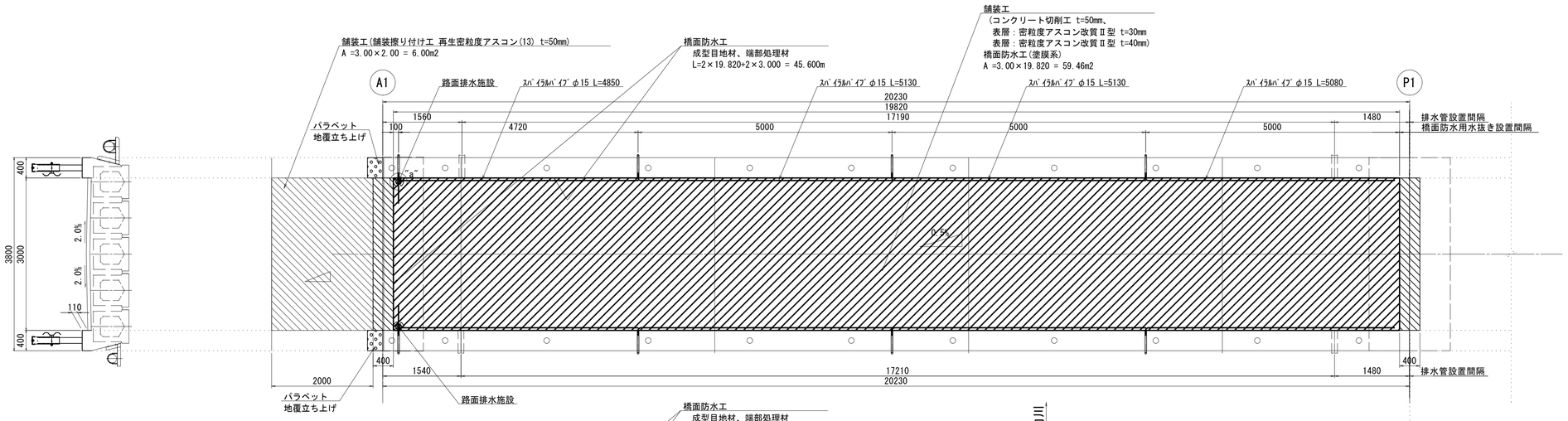
設 計 条 件

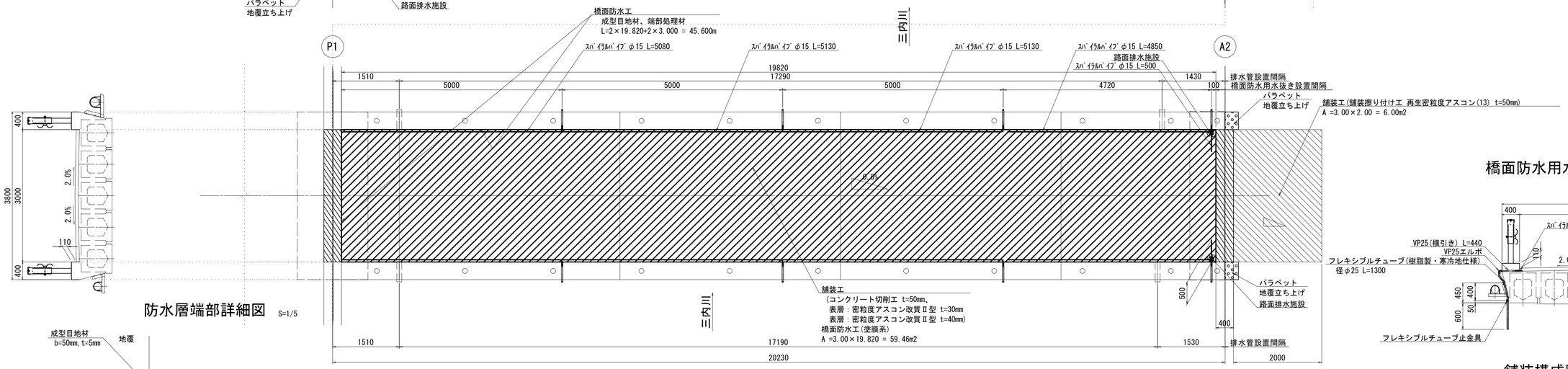
路 線 名		市道　渡ノ波線
活 荷 重		不明
形 式	上 部 工	PC単純中空床版橋
	下 部 工	Ａ１，Ａ２橋台：逆T式橋台
		Ｐ１橋脚：壁式橋脚
	基 礎 工	不明
橋 長		40.460m
桁 長		20.200m + 20.200m
支 間 長		19.600m + 19.600m
幅 員		3.000m
総 幅 員		3.800m
斜 角		90° 00′ 00″
線 形 条 件	平面線形	R = ∞
	縦断線形	0.5%　0.5%
	横断線形	2.0%　2.0%
舗 装		アスファルト舗装厚 = 70mm(30mm+40mm)
		調整コンクリート厚 = 20～50mm
添 加 物		水道管：φ100、下水道管：φ75
交 差 物		三内川
竣 工 年		昭和53年
適 用 基 準		不明

年　度	令和 5 年度		
工 事 名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図 面 名	渡ノ波橋 補修一般図		
縮　尺	図　示	図面番号	1 / 11
秋田市建設部道路維持課			

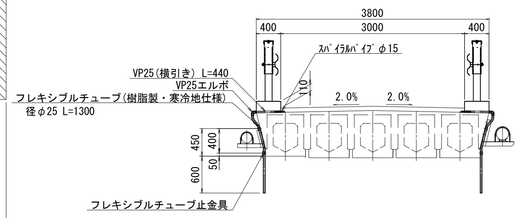
舗装工 S=1/50

〈路面切削工・橋面防水工・舗装打換え工・舗装擦り付け工〉

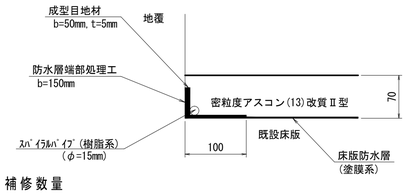




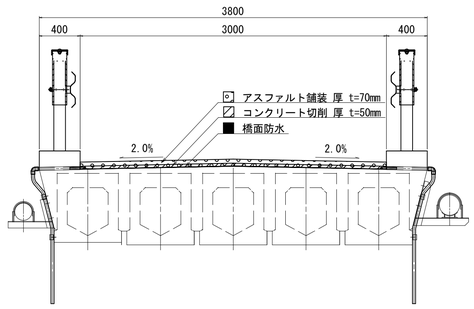
橋面防水用水抜き設置断面図 S=1/50



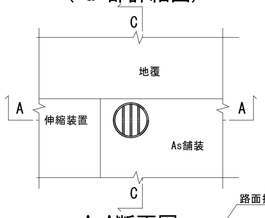
防水層端部詳細図 S=1/5



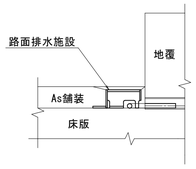
舗装構成図 S=1/30



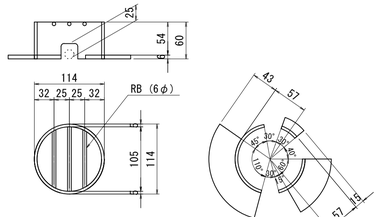
路面排水施設詳細図 S=1/10
(″a″部詳細図)



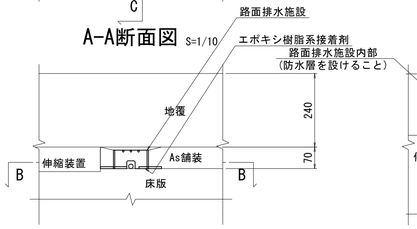
C-C断面図 S=1/10



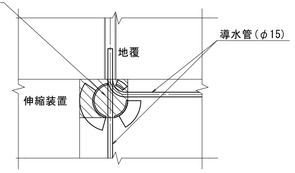
路面排水材料詳細図 S=1/10
Σ=4



A-A断面図 S=1/10



B-B断面図 S=1/10



補修数量

工種	項目	規格　仕様	数量	
舗装工	路面切削工	コンクリート切削(平均切削厚5cm)	118.9	m2
	舗装打換え工	表層(t=3cm)	118.9	m2
		表層(t=4cm)	118.9	m2
	舗装擦付け工	表層(平均舗装厚 t=50mm)	6.0	m2
	橋面防水工	塗膜系防水	118.9	m2
		成型目地材(b=50mm、t=5mm)	91.3	m
		端部処理材(b=150mm)	91.3	m
		導水管(φ15、樹脂系)	82.8	m
		塩化ビニルパイプ(VP25)	7.0	m
		VP25エルボ	16	個
		フレキシブルチューブφ25(樹脂製・寒冷地仕様)	20.8	m
		フレキシブルチューブ止留金具 (コンクリート用)	32	個
		路面排水施設	4	基

注記)
1. 施工前に現地計測を行い、補修範囲および数量を確認し、協議のうえ施工すること。
2. 現地確認の結果、損傷に変化がみられた場合は、工法等も含め協議のうえ施工すること。
3. 切削時、床版にひび割れ等の異常がみられた場合は、協議のうえ施工すること。
4. 舗装の擦り付け範囲は、協議のうえ施工すること。
5. 水抜き管の流末は、フレキシブルチューブを用いて桁端部では橋座、中間部では桁下より低い位置で処理すること。
6. 橋面防水用水抜き設置間隔は5000以内で設置すること。
7. フレキシブルチューブ等排水管は凍結に強い材料を使用すること。
8. 導水管は、滞水が生じないよう適切に導水勾配を設けること。
9. 横引きのVP管部は削孔、敷設後無収縮モルタル等で隙間を充填すること。
10. 橋面排水は橋座面への垂れ流しはしないこと。
11. 路面排水の中など狭所によりシート系防水の困難な個所は塗膜系防水としてもよい。
ただし、地覆部、伸縮装置部への立ち上げは必ず行うこと。
12. 特記なき材質はSUS304とする。

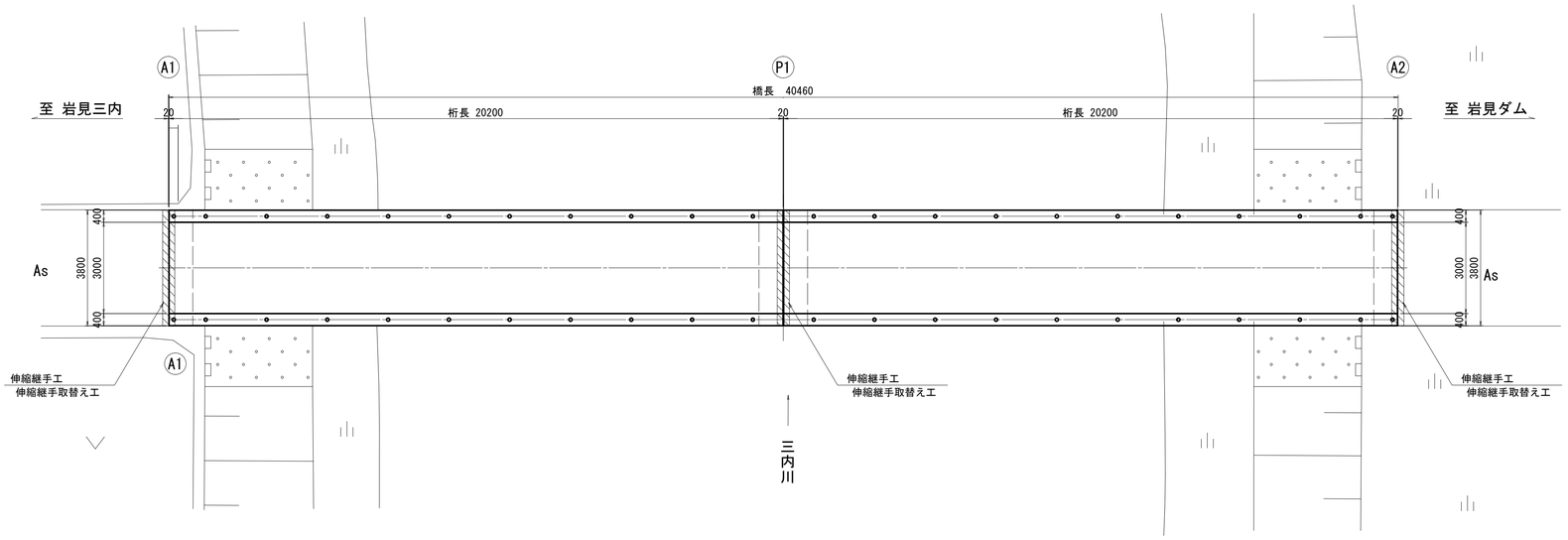
年　度	令和 5 年度		
工事名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図面名	舗装工		
縮　尺	図　示	図面番号	2 / 11
秋田市建設部道路維持課			

橋梁付属物工(その1)(参考) S=1/100

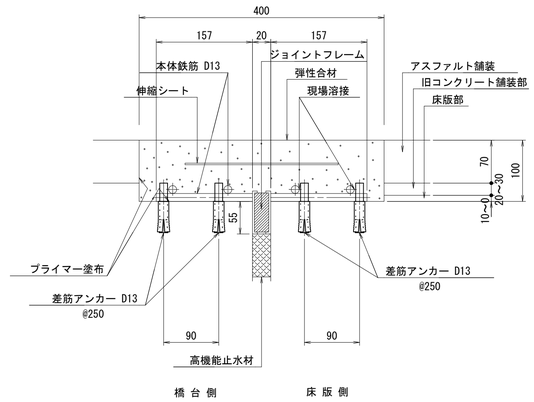
〈伸縮継手工〉

A1、P1、A2

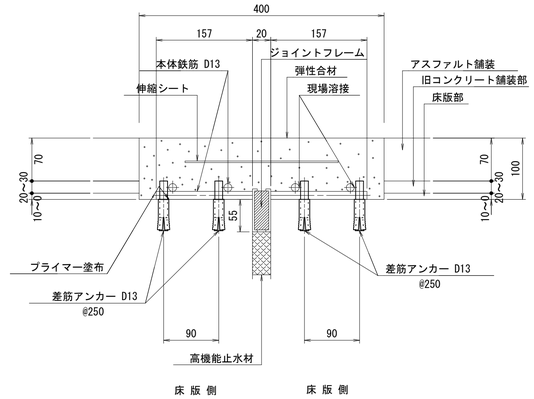
平面図 S=1/100



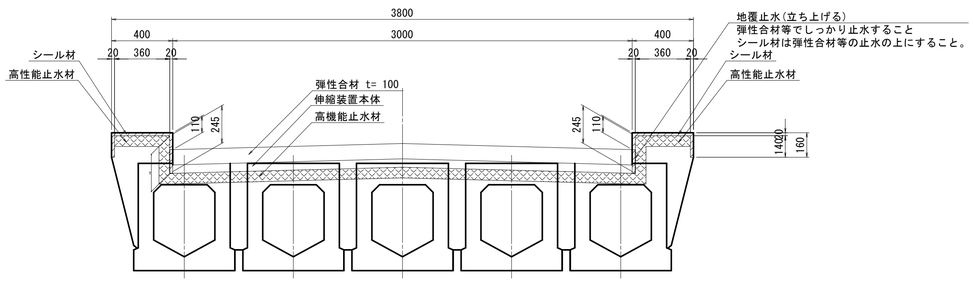
断面図 S=1/5
(橋台部)



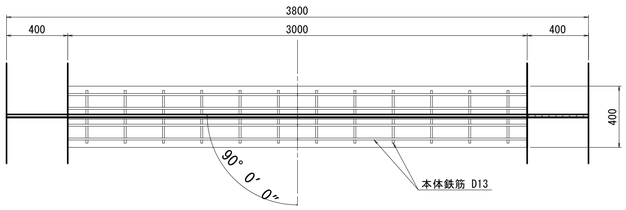
断面図 S=1/5
(橋脚部)



断面図 S=1/20



平面図 S=1/20



補修数量

工種	項目	規格 仕様	数量	
橋梁付属物工	伸縮継手工	埋設型 3基	9.0	m

注記)
1. 施工前に現地計測を行い、補修範囲および数量を確認し、協議のうえ施工すること。
2. 現地確認の結果、損傷に変化がみられた場合は、協議のうえ施工すること。
3. 伸縮装置はつり時、異常がみられた場合は、協議のうえ施工すること。
4. 防水は、伸縮部に立ち上げること。
5. PC橋梁部の差し筋アンカーは鉄筋探査のうえ影響のない所に施工すること。

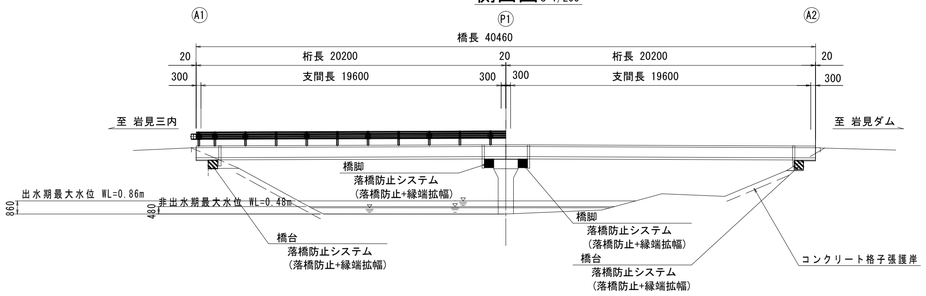
年 度	令和 5 年度		
工事名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図面名	橋梁付属物工(その1)(参考)		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 11
秋田市建設部道路維持課			

橋梁付属物工(その2) S=1/200

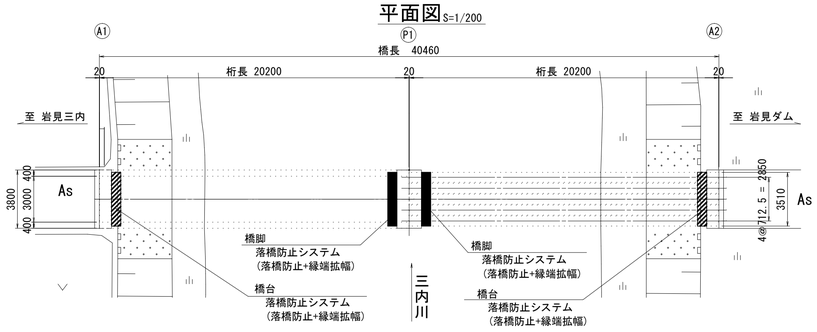
〈落橋防止装置工 (その1)〉

A1、A2

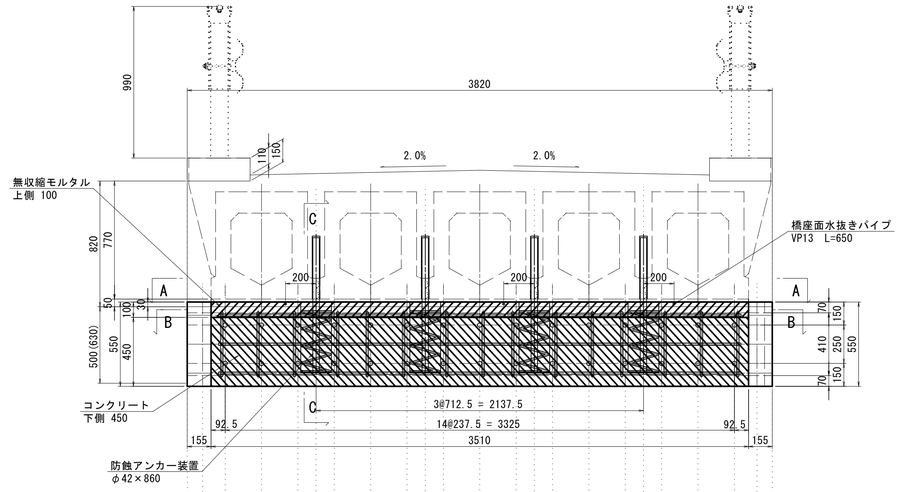
側面図 S=1/200



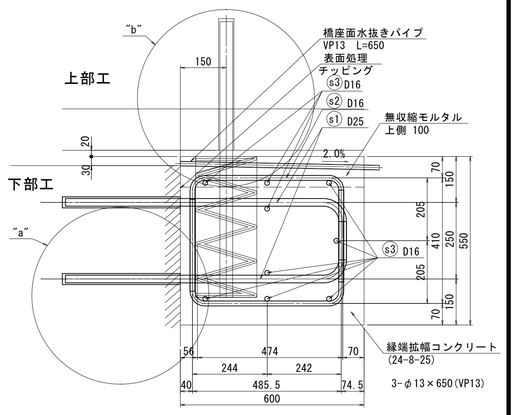
平面図 S=1/200



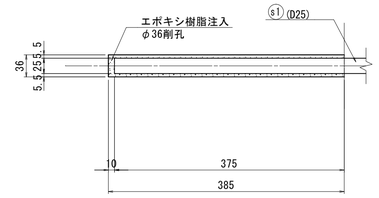
断面図 S=1/20



C-C 断面図 S=1/10

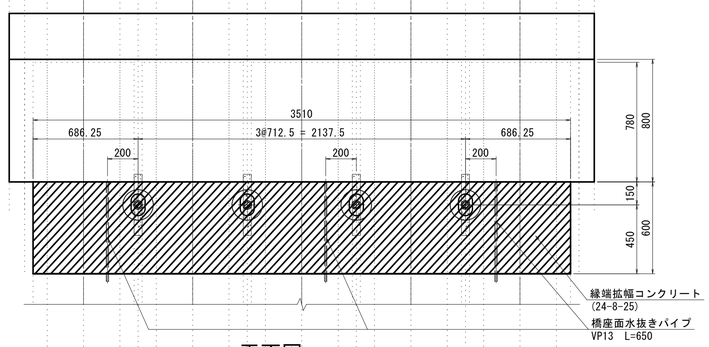


"a"部詳細図 S=1/5



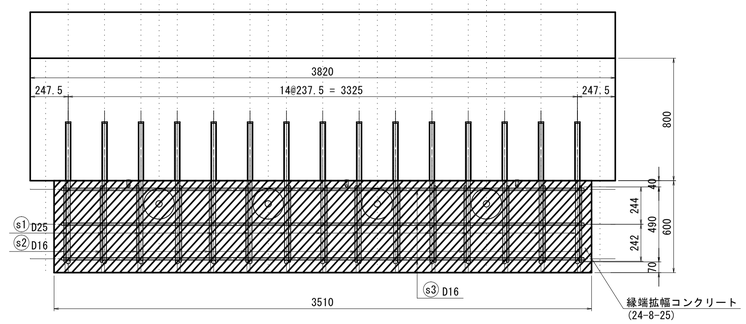
平面図 S=1/20

(A-A断面)

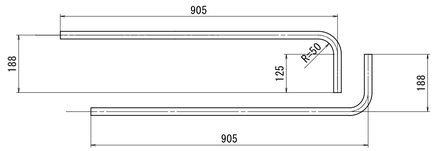


平面図 S=1/20

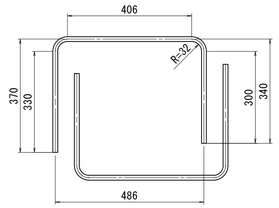
(B-B断面)



鉄筋加工図



s1 30-D25×1070



s2 30-D16×1170

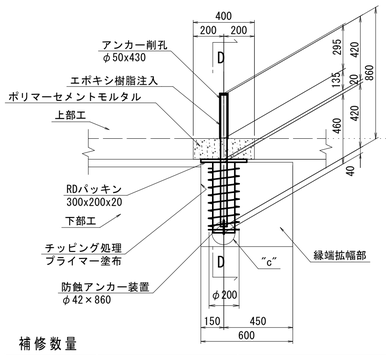
s3 9-D16×3410

鉄筋質量表(A1,A2,P1)

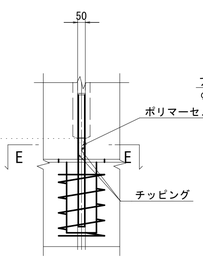
番号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	摘要
s1	D25	1070	30	3.98	4.259	127.77	
s2	D16	1160	30	1.56	1.810	54.30	
s3	D16	3410	9	1.56	5.320	47.88	
小計	D25				Σ =	127.77	
	D16				Σ =	102.18	
合計					Σ =	229.95	
総合計					4 Σ =	919.80	

"b"部詳細図 S=1/20

(橋軸方向のアンカー設置位置)



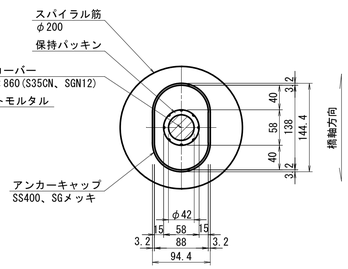
D-D 断面図 S=1/20



E-E 断面図 S=1/5

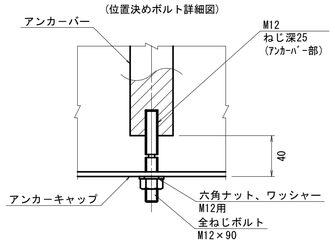
(防蝕アンカー装置)

M42D

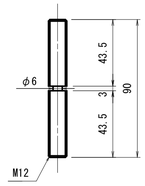


"c"部詳細図

(位置決めボルト詳細図)



全ねじボルト詳細図



補修数量

工種	項目	規格 仕様	数量	
工場製作工	落橋防止装置製作工	防蝕アンカー (φ42×860)	16	組
橋梁付属物工	落橋防止装置工	σck=24N (24-8-25)	3.8	m3
		無収縮モルタル	0.8	m3
		ポリマーセメントモルタル	0.02	m3
		鉄筋 D25(SD345)	511	kg
		鉄筋 D16(SD345)	409	kg
		エポキシ樹脂系接着剤	25.6	L
		VP13(L=650)	12	本

注) A1、A2、P1全箇所での数量を記す。

注記)

1. 施工前に現地計測を行い、補修範囲および数量を確認し、協議のうえ施工すること。
2. 現地確認の結果、損傷に変化がみられた場合は、工法等も含め協議のうえ施工すること。
3. 沓座モルタル上面は、排水勾配を設けるなど滞水しないよう配慮すること。
4. 拡幅部既設コンクリート面は、チッピング等適切な表面処理を行うこと。
5. アンカー鉄筋削孔前にRCレーダー等で鉄筋探査を行い既設鉄筋に配慮し施工すること。
6. アンカーの定着は、アンカー定着用のエポキシ樹脂を用いて行うこと。
7. 特記なき鉄筋の材質はSD345とする。
8. コンクリートの設計基準強度はσck=24N/mm2以上とする。
9. ポリマーセメントモルタルの設計基準強度はσck=50N/mm2以上とする。

年 度	令和 5 年度		
工事名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図面名	橋梁付属物工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 11

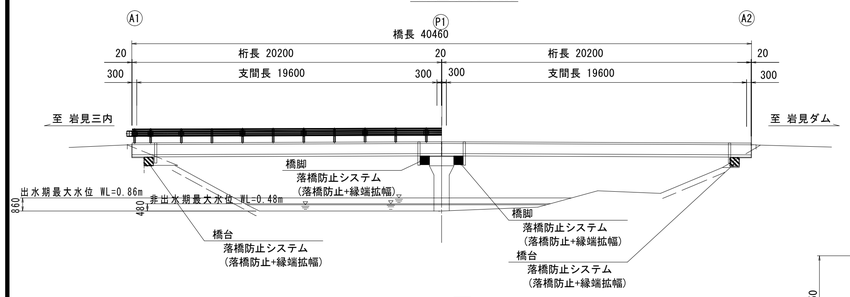
秋田市建設部道路維持課

橋梁付属物工(その3) S=1/200

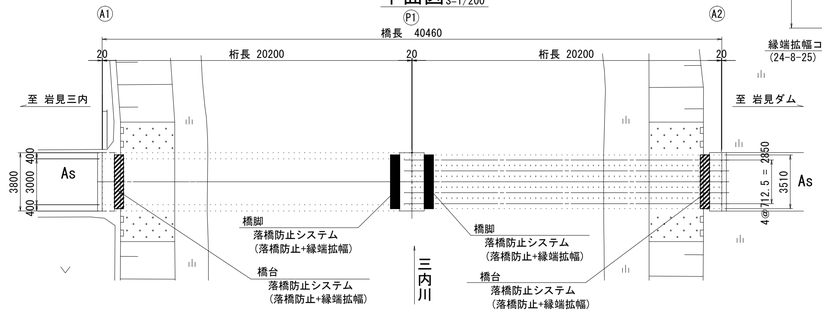
〈落橋防止装置工 (その2)〉

P1

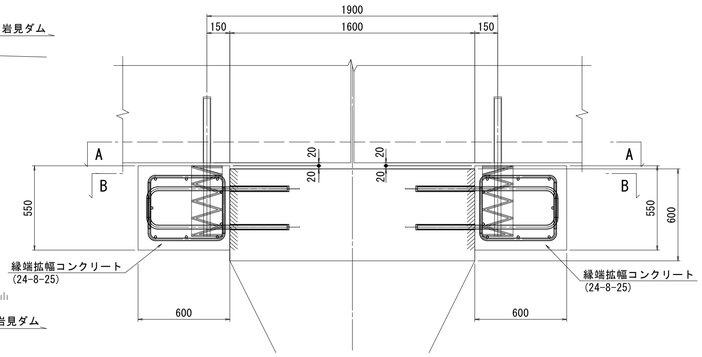
側面図 S=1/200



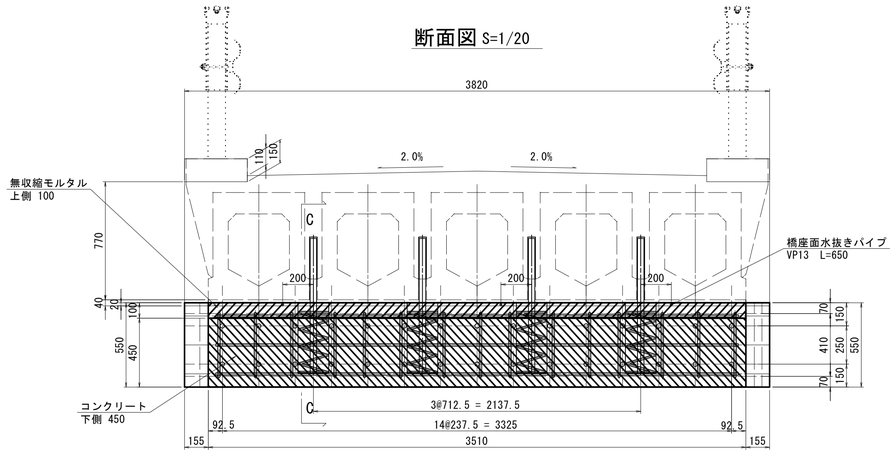
平面図 S=1/200



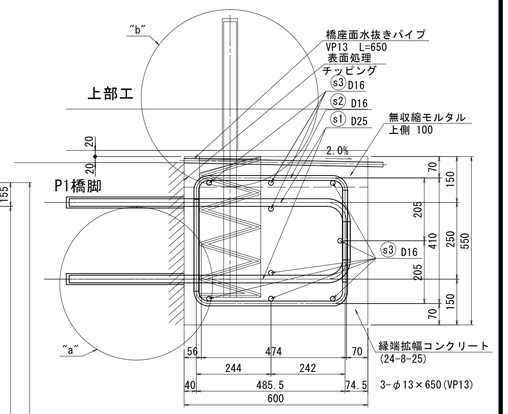
側面図 S=1/20



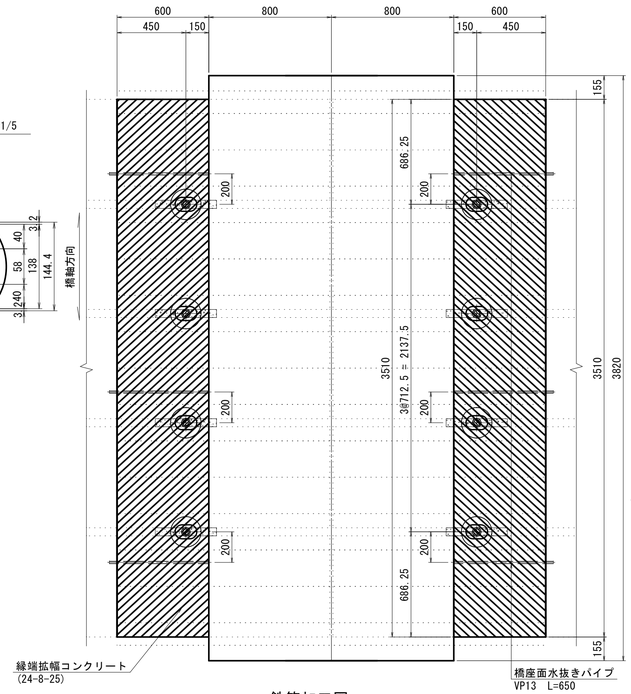
断面図 S=1/20



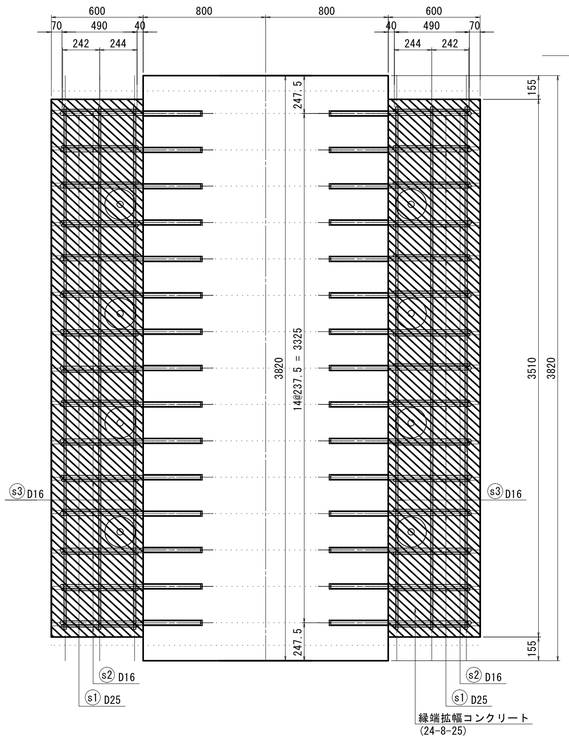
C-C 断面図 S=1/10



平面図 S=1/20 (A-A断面)

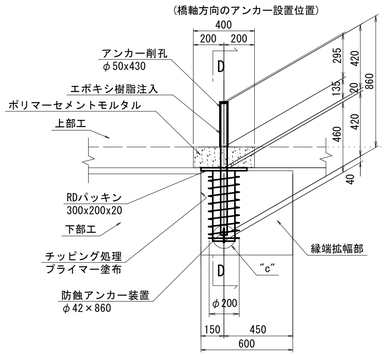


平面図 S=1/20 (B-B断面)

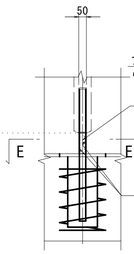


"b"部詳細図 S=1/20

(橋軸方向のアンカー設置位置)



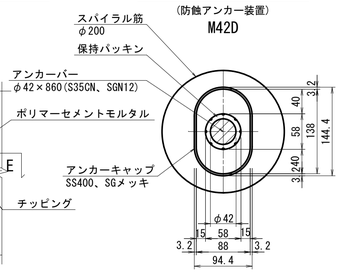
D-D 断面図 S=1/20



E-E 断面図 S=1/5

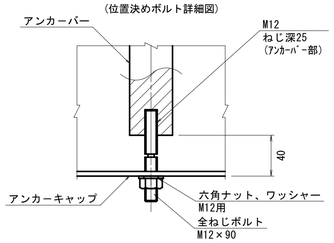
(防蝕アンカー装置)

M42D

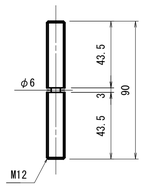


"c"部詳細図

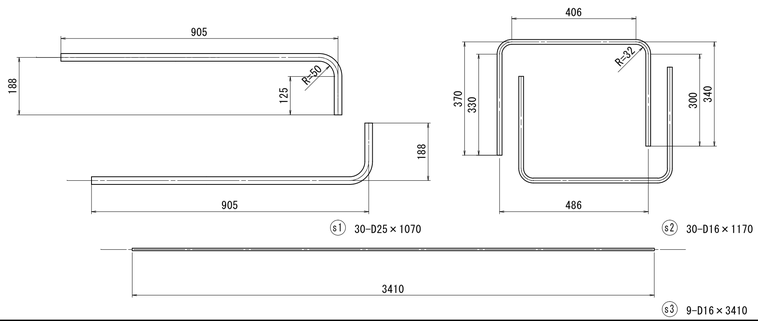
(位置決めボルト詳細図)



全ねじボルト詳細図



鉄筋加工図



鉄筋質量表(A1,A2,P1)

番号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	摘要
s1	D25	1070	30	3.98	4.259	127.77	
s2	D16	1160	30	1.56	1.810	54.30	
s3	D16	3410	9	1.56	5.320	47.88	
小計	D25				Σ =	127.77	
	D16				Σ =	102.18	
合計					Σ =	229.95	
総合計				4	Σ =	919.80	

補修数量

工種	項目	規格 仕様	数量	
工場製作工	落橋防止装置製作工	防蝕アンカー (φ42×860)	16	組
橋梁付属物工	落橋防止装置工	σck=24N (24-8-25)	3.8	m3
		無収縮モルタル	0.8	m3
		ポリマーセメントモルタル	0.02	m3
		鉄筋 D25(SD345)	511	kg
		鉄筋 D16(SD345)	409	kg
		エポキシ樹脂系接着剤	25.6	L
		VP13(L=650)	12	本

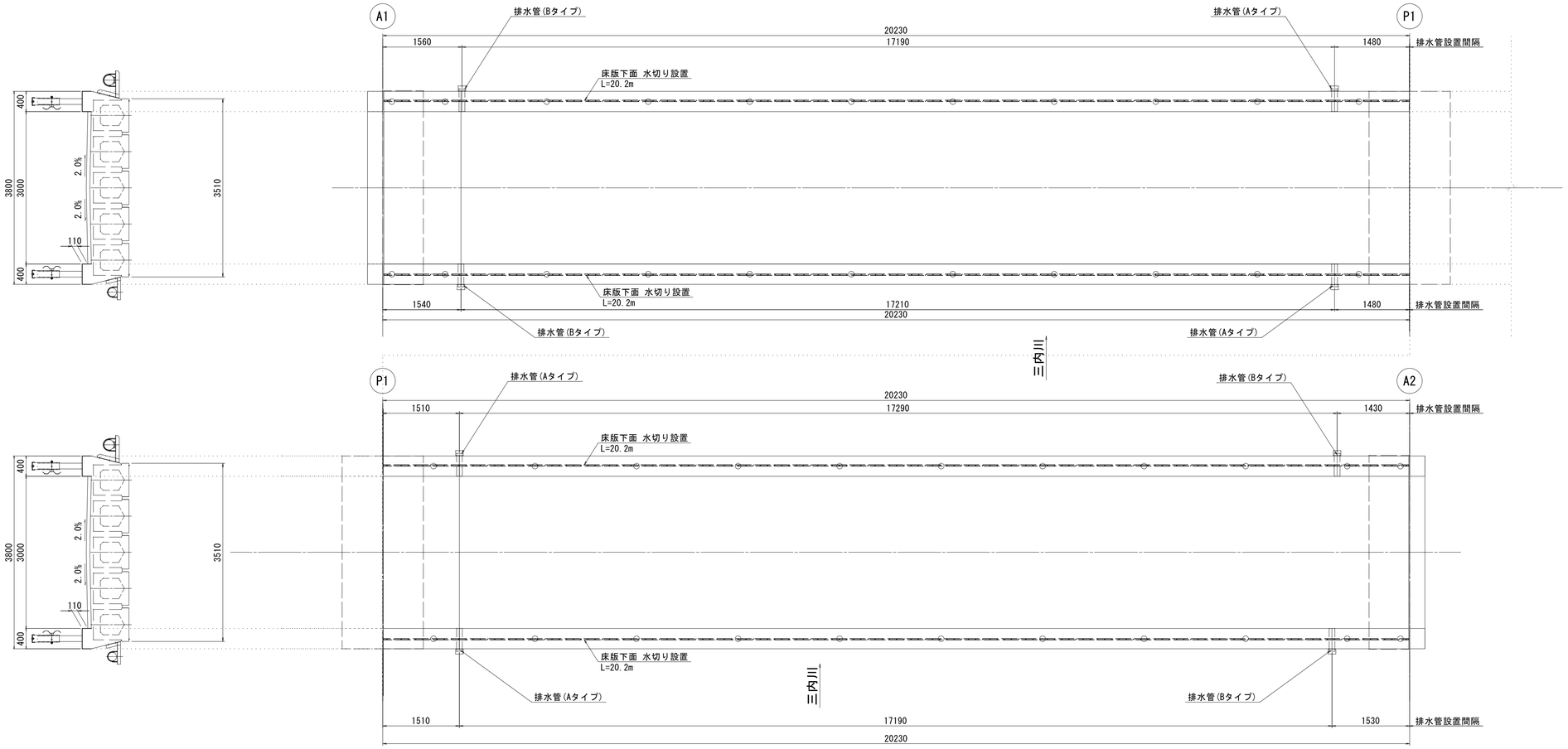
注) A1、A2、P1全箇所での数量を記す。

注記)
1. 施工前に現地計測を行い、補修範囲および数量を確認し、協議のうえ施工すること。
2. 現地確認の結果、損傷に変化がみられた場合は、工法等も含め協議のうえ施工すること。
3. 沓座モルタル上面は、排水勾配を設けるなど滞水しないよう配慮すること。
4. 拡幅部既設コンクリート 面は、チッピング等適切な表面処理を行うこと。
5. アンカー鉄筋削孔前にRCレーダー等で鉄筋探査を行い既設鉄筋に配慮し施工すること。
6. アンカーの定着は、アンカー定着用のエポキシ樹脂を用いて行うこと。
7. 特記なき鉄筋の材質はSD345とする。
8. コンクリート の設計基準強度はσck=24N/mm2以上とする。
9. ポリマーセメント モルタルの設計基準強度はσck=50N/mm2以上とする。

年 度	令和 5 年度		
工 事 名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図 面 名	橋梁付属物工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 11
秋田市建設部道路維持課			

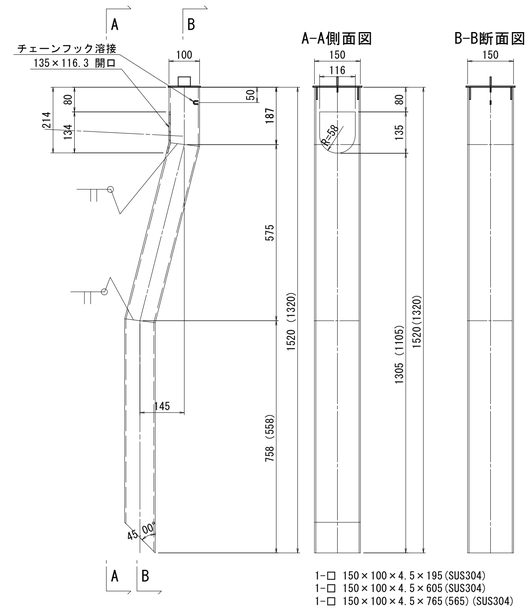
橋梁付属物工(その4) S=1/50

〈排水施設工〉



排水管詳細図 S=1/10

Aタイプ Σ = 4箇所
(Bタイプ Σ = 4箇所)

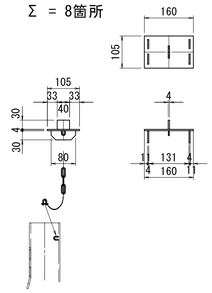


1-□ 150×100×4.5×195(SUS304)
1-□ 150×100×4.5×605(SUS304)
1-□ 150×100×4.5×765(565)(SUS304)

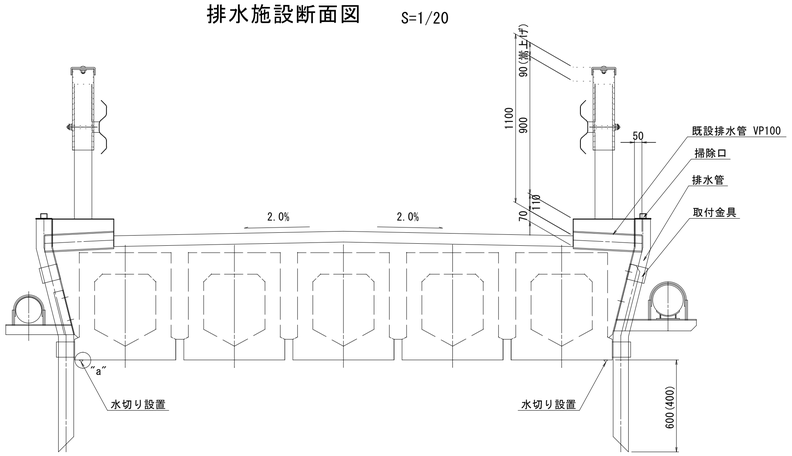
注)
()内寸法は、Bタイプを示す。

清掃口詳細図 S=1/10

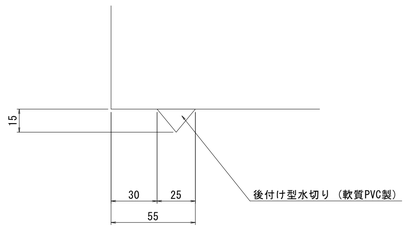
Σ = 8箇所



排水施設断面図 S=1/20

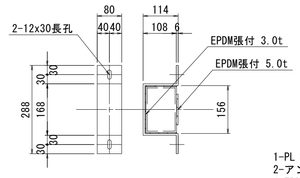


"a"部詳細図 S=1/2



取付金具詳細図 S=1/10

Σ = 2×8箇所



1-PL 80x6x505(SS400) ※1
2-アンカーボルト M10x80(SS400) ※1
1-EPDM 80x3x350
1-EPDM 80x5x100

補修数量

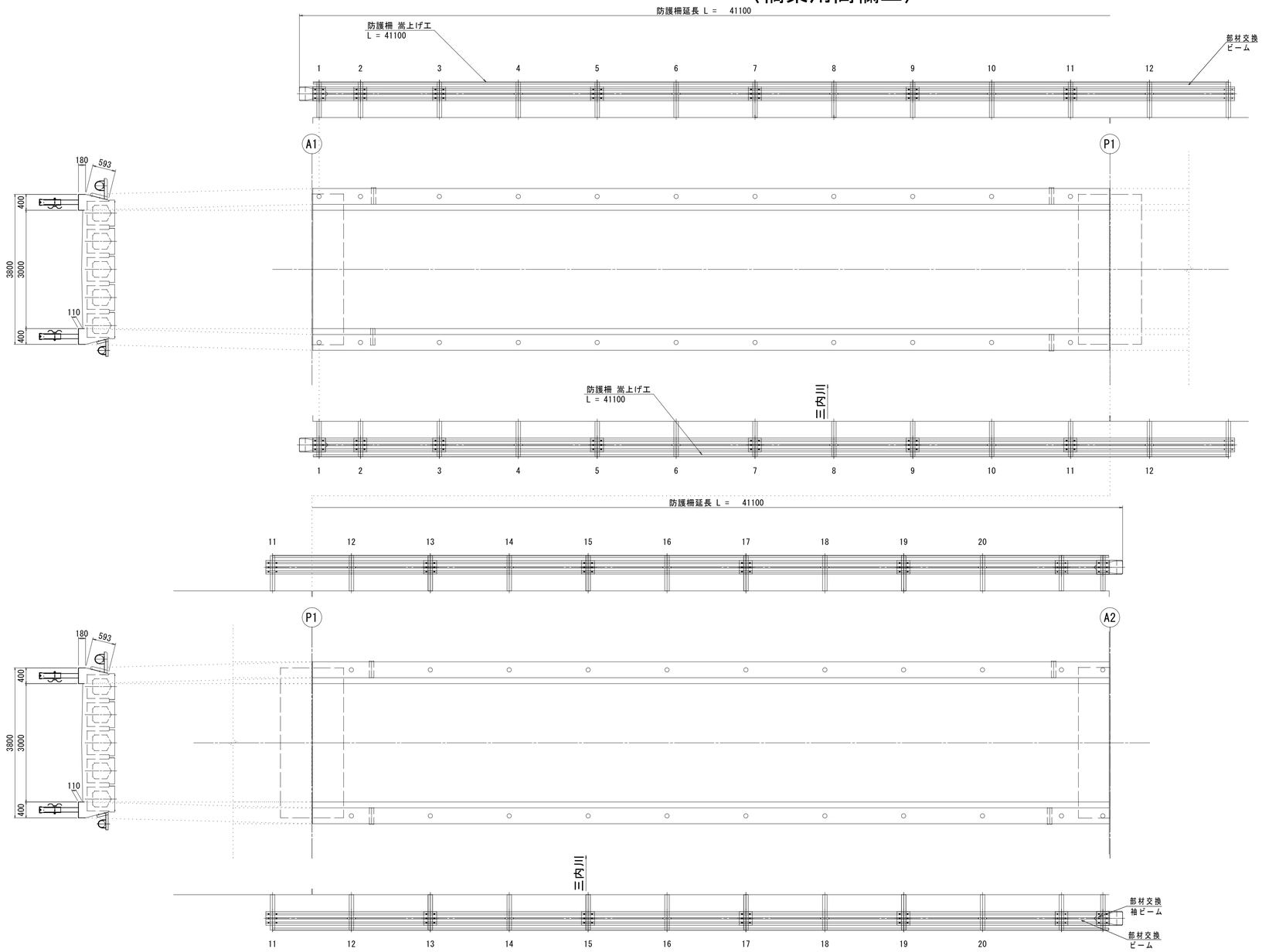
工種	項目	規格 仕様	数量	
橋梁付属物工	排水施設工	鋼管設置	8	基
	水切り設置工	後付け型水切り (軟質PVC製)	80.8	m

注記)
1. 施工前に現地計測を行い、補修範囲および数量を確認し、協議のうえ施工すること。
2. 現地確認の結果、損傷に変化がみられた場合は、工法等も含め協議のうえ施工すること。
3. 排水管は現地計測結果を反映し、製作すること。
4. 排水は橋座面への垂れ流しはしないこと。
5. ※1は溶融亜鉛メッキHDZ35以上とする。
6. 排水管が埋まらないようアスファルト 舗装で導水勾配を設けること。
7. 水切り設置の際は適切な気象条件下で施工すること。
8. 水切りの設置は、断面修復後に行うこと。

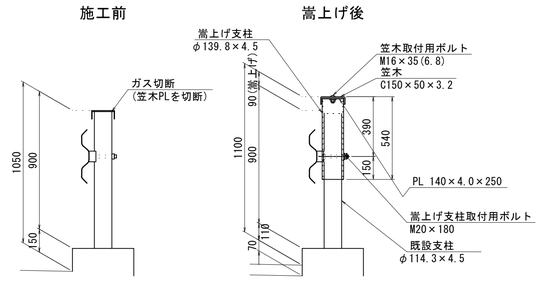
年 度	令和 5 年度		
工事名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図面名	橋梁付属物工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	6 / 11
秋田市建設部道路維持課			

橋梁付属物工(その5) S=1/60

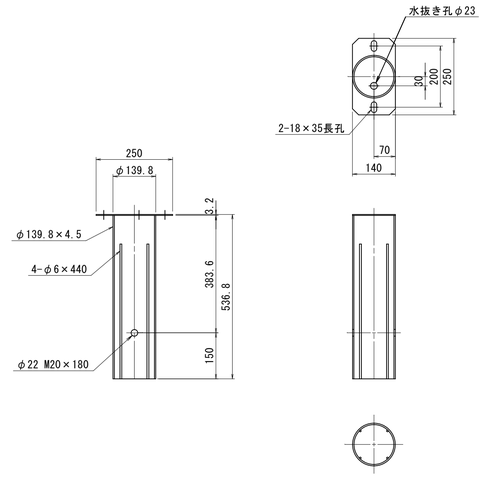
〈橋梁用高欄工〉



防護柵嵩上げ詳細図 S=1/20



嵩上げ支柱加工図 S=1/10



補修数量

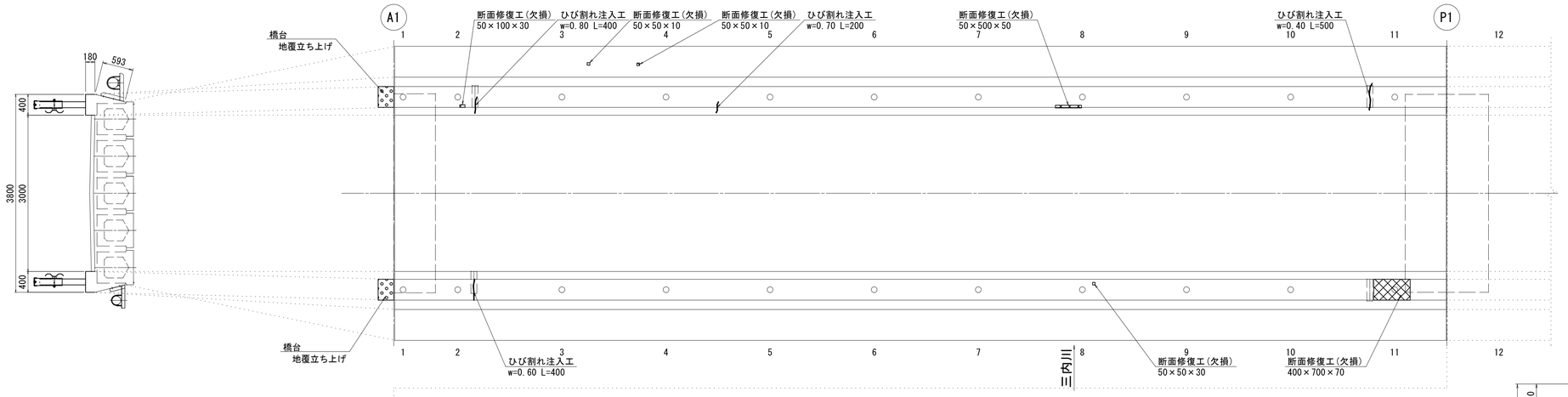
工種	項目	規格 仕様	数量
橋梁付属物工	部材交換	ビーム 4m	20枚
		ビーム 2m	4枚
		袖ビーム	4枚
	嵩上げ	嵩上げ支柱	82.2 m

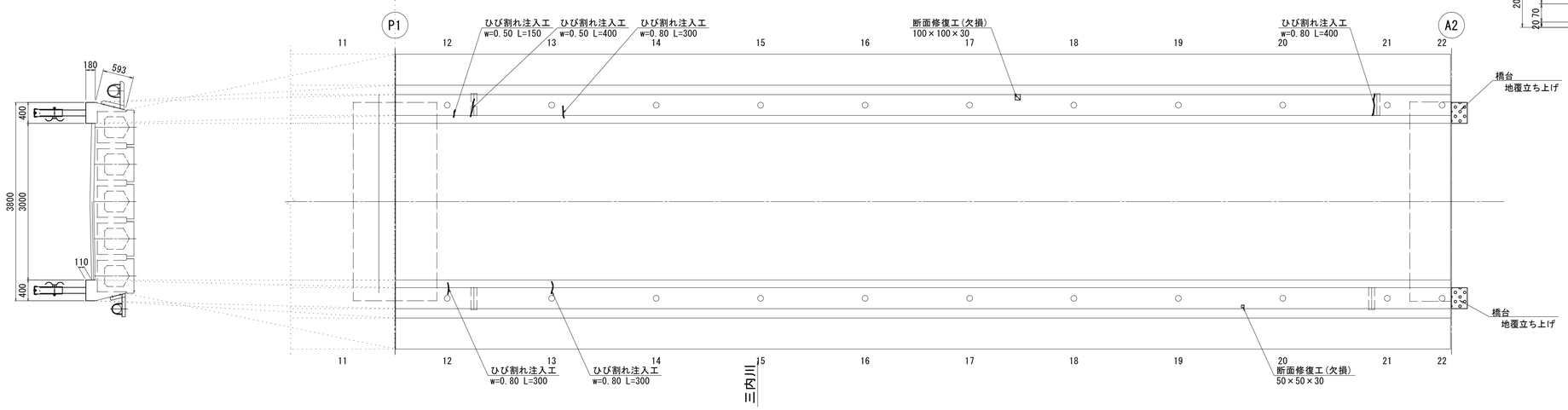
注記)
1. 施工前に現地計測を行い、補修範囲および数量を確認し、協議のうえ施工すること。
2. 現地確認の結果、損傷に変化がみられた場合は、工法等も含め協議のうえ施工すること。
3. 柱切断部はG仕上げしたのちタッチアップ塗装をすること。

年 度	令和 5 年度		
工事名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図面名	橋梁付属物工(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 11
秋田市建設部道路維持課			

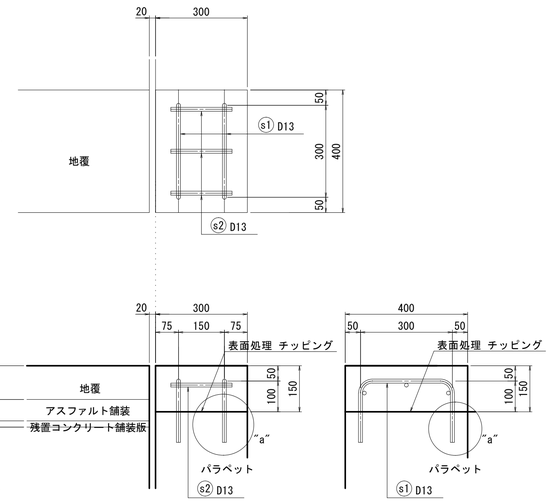
橋梁補修工(その1) S=1/50

〈橋梁地覆補修工〉

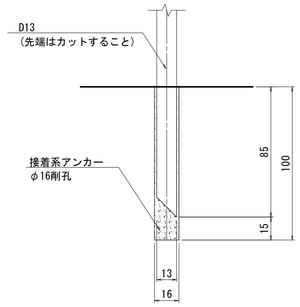




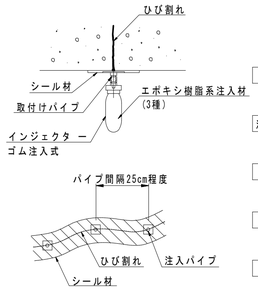
コンクリート工詳細図 S=1/10
(パラペット立ち上げ)
Σ = 4箇所



"a"部 詳細図 S=1/2



ひびわれ注入工法
(ひびわれ幅 0.2mm以上 1.0mm未満)



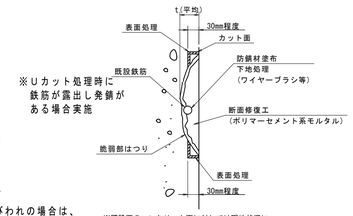
※ひびわれ幅により修復する工法が異なるため、現地状況を十分に確認のこと。

施工フロー

開 始 ← ひびわれ調査
↓
ひびわれ部の清掃
↓
注入用パイプセット ← パイプ間隔確認
↓
ひびわれ面シール ← シール材の養生
↓
注 入 ← ※進行性のひびわれの場合は、可撓性エポキシ樹脂の使用を考慮
↓ ← 注入量の確認・養生
パイプ撤去
↓
シール材撤去
↓
終 了

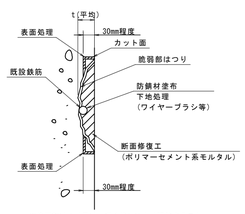
断面修復工概要図

剥離・鉄筋露出の場合



※既設面のコンクリート面に対しては現地状況に合わせた表面処理を行うこと。
※既設鉄筋表面の錆は十分に撤去すること。
※フェザーエッジを作らないように端部は、カッター処理を行なうこと。

表面に浮きがある場合

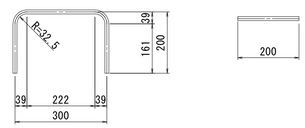


※脆弱部はつり量は、現地状況により調整すること。
※既設鉄筋表面の錆は十分に撤去すること。

断面修復のフローチャート

開 始
↓
損傷部の
コンクリートのはつり ・ 鉄筋の露出
↓
鉄筋の錆落し ・ 清掃
↓
鉄筋の表面に防錆材塗布
↓
コンクリート面にプライマー塗布
↓
コンクリートの欠損部に修復材で修復
↓
養 生
↓
終 了

鉄筋加工図



(s1) 2-D13×670(SD345)　(s2) 3-D13×200(SD345)

鉄筋質量表

番号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	摘要
1	D13	670	2	0.995	0.667	1.3	
2	D13	200	3	0.995	0.199	0.6	
小計						1.9	
合計				1.9 × 4 箇所 =		7.6	

補修数量

工種	項目	規格 仕様	数量	
橋梁補修工	ひび割れ補修工	低圧注入工法 ひび割れ幅 0.2≦w<1.0mm	3.35	m
	断面修復工	左官工法	0.0215	m3
	コンクリート工 (地覆立ち上げ)	σck=24N (24-8-25)	0.072	m3
		鉄筋 D13(SD345)	8	kg
		エポキシ樹脂系接着剤	0.109	L

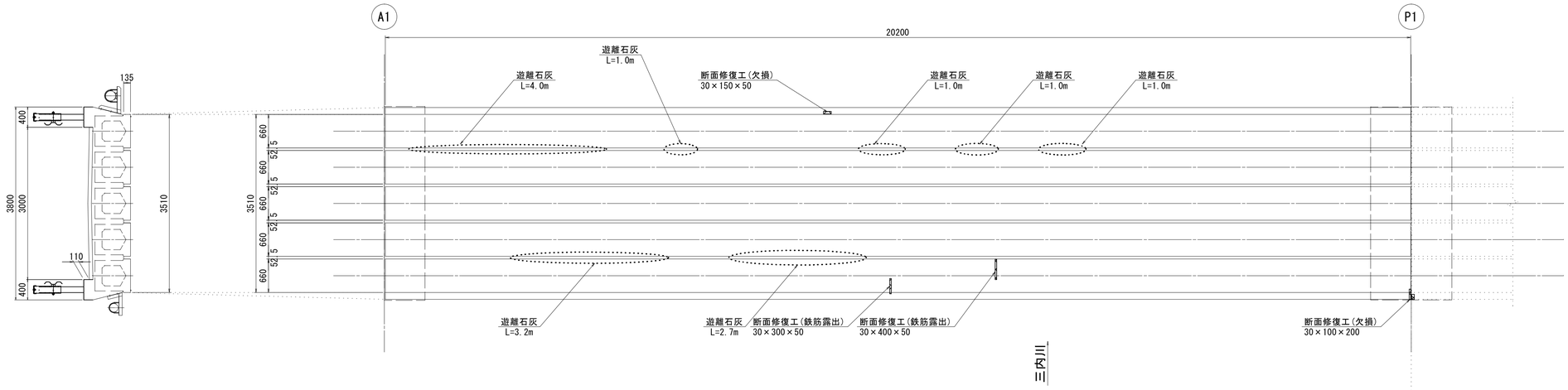
注記)
1. 施工前に現地計測を行い、補修範囲および数量を確認し、協議のうえ施工すること。
2. ひび割れ補修部は、清掃後に検測し、協議のうえ施工すること。
3. ひび割れ幅の大きさや施工条件によりほかの工法が適切となる場合は協議のうえ施工すること。
4. 現地確認の結果、損傷に変化がみられた場合は、工法等も含め協議のうえ施工すること。
5. 断面修復工の際のカッター工は鉄筋かぶりに注意し、作業の有無、深さを決定すりこと。
6. 鉄筋が露出している際は適切に防腐処理を行うこと。
7. 鉄筋が腐食している際は、腐食の状況に応じて適切に処理すること。
8. 断面修復工の際、重ね塗りが必要な際は、時間や硬化状態に注意すること。
9. 断面修復工のかぶりは30mm以上確保すること。
10. アンカーは接着系として計上しているが、それ以外の方法を採用する場合は協議の上施工すること。
11. ひび割れ注入に使用する材料は、3種とする。
12. 左官工法に使用する材料はσck=30N以上のポリマーセメント モルタルとする。

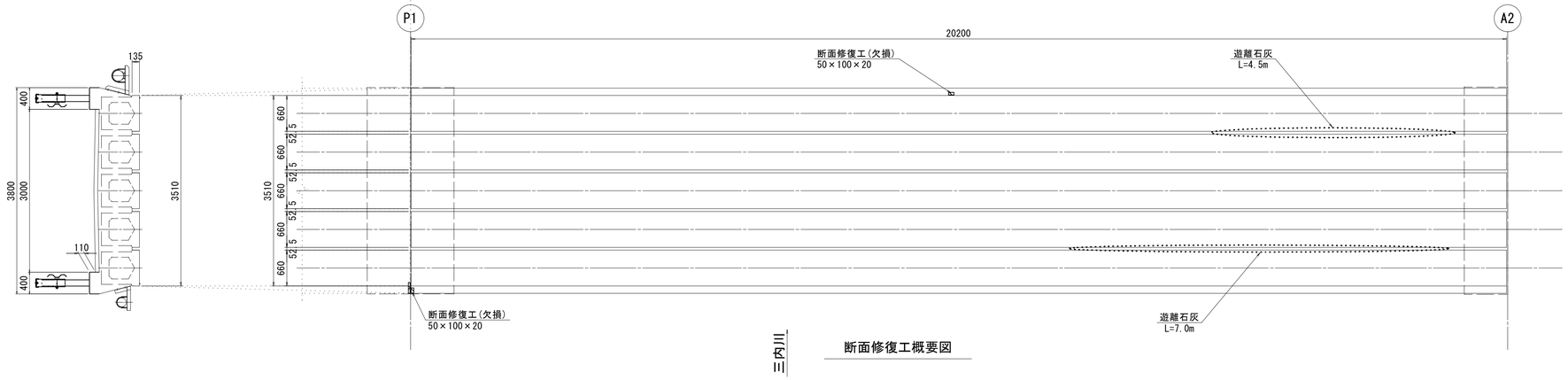
年 度	令和 5 年度		
工事名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図面名	橋梁補修工(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	8 / 11
秋田市建設部道路維持課			

橋梁補修工(その2) S=1/50

〈床版補修工〉

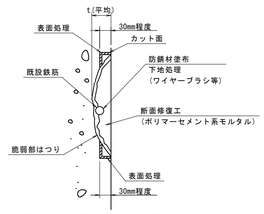
PC中空床版部





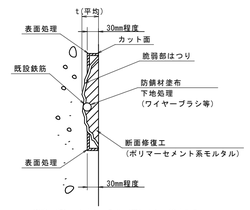
断面修復工概要図

剥離・鉄筋露出の場合



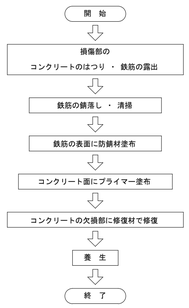
※既設面のコンクリート面に対しては現地状況に合わせた表面処理を行うこと。
※既設鉄筋表面の錆は十分に除去すること。
※フェザーエッジを作らないように端部は、カッター処理を行なうこと。

表面に浮きがある場合



※脆弱部はつり量は、現地状況により調整すること。
※既設鉄筋表面の錆は十分に除去すること。

断面修復のフローチャート



注記)
1. 施工前に現地計測を行い、補修範囲および数量を確認し、協議のうえ施工すること。
2. ひび割れ補修部は、清掃後に検測し、協議のうえ施工すること。
3. ひび割れ幅の大きさや施工条件によりほかの工法が適切となる場合は協議のうえ施工すること。
4. 現地確認の結果、損傷に変化がみられた場合は、工法等も含め協議のうえ施工すること。
5. 断面修復工の際のカッターエは鉄筋かぶりに注意し、作業の有無、深さを決定すりこと。
6. 鉄筋が露出している際は適切に防腐処理を行うこと。
7. 鉄筋が腐食している際は、腐食の状況に応じて適切に処理すること。
8. 断面修復工の際、重ね塗りが必要な際は、時間や硬化状態に注意すること。
9. 断面修復工のかぶりは30mm以上確保すること。
10. ひび割れ注入に使用する材料は、3種とする。
11. 左官工法に使用する材料はσck=50N以上のポリマーセメントモルタルとする。

補修数量

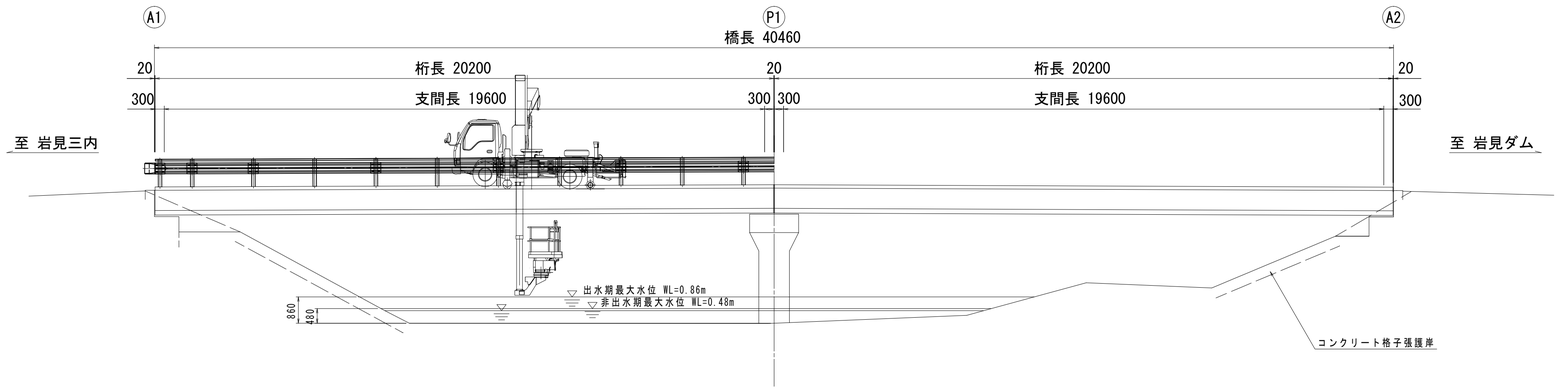
工種	項目	規格 仕様	数量	
橋梁補修工	断面修復工	左官工法(ポリマーセメントモルタル)	0.00208	m3

年 度	令和 5 年度		
工事名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図面名	橋梁補修工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	9 / 11
秋田市建設部道路維持課			

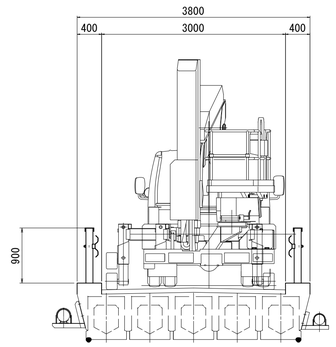
仮設工(その1)(参考図) S=1/100

〈足場工(橋梁点検車)〉

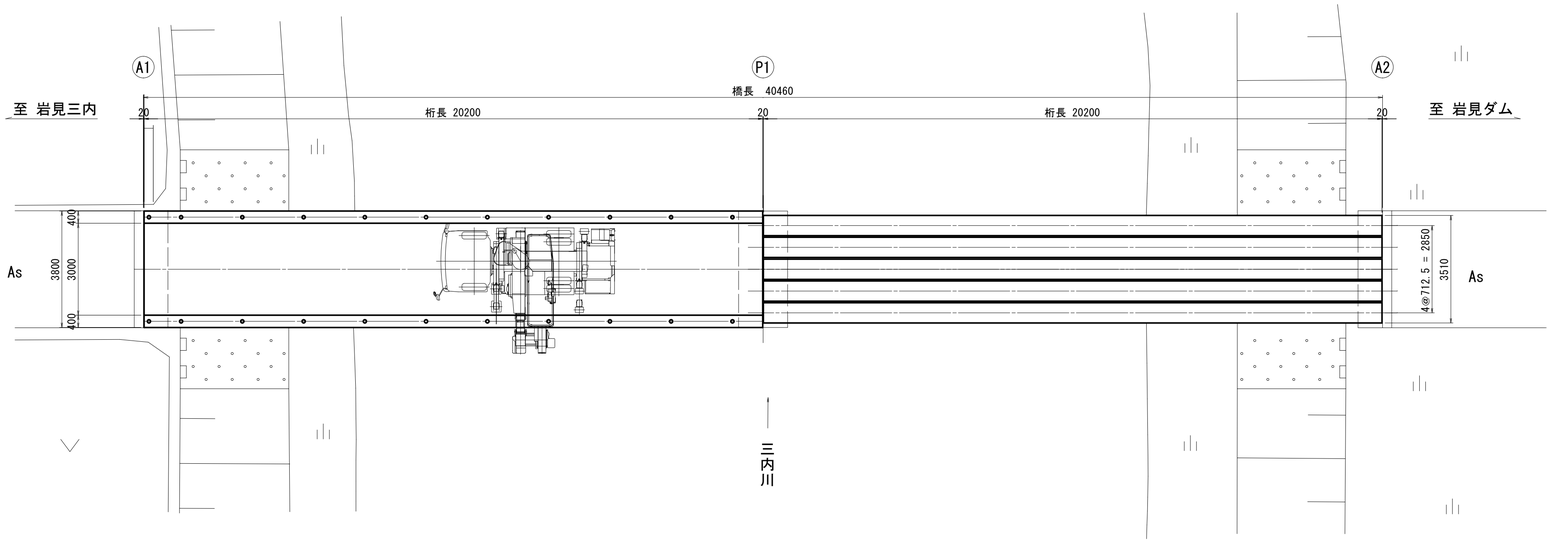
側面図 S=1/100



標準断面図 S=1/50



平面図 S=1/100

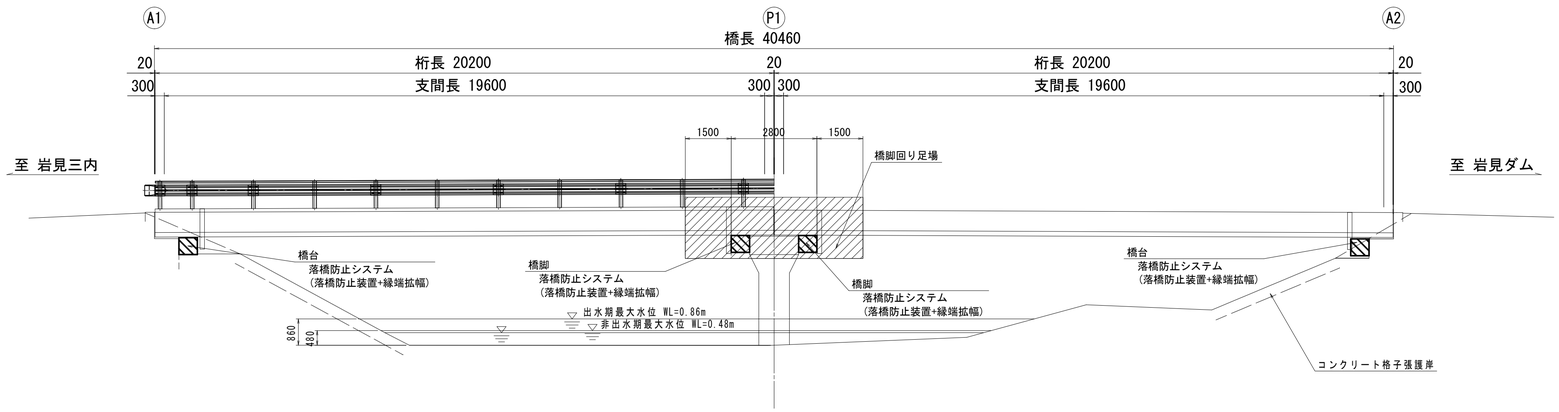


年　度	令和 5 年度		
工 事 名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図 面 名	仮設工(その1)(参考図)		
縮　尺	図　示	図面番号	10 / 11
秋田市建設部道路維持課			

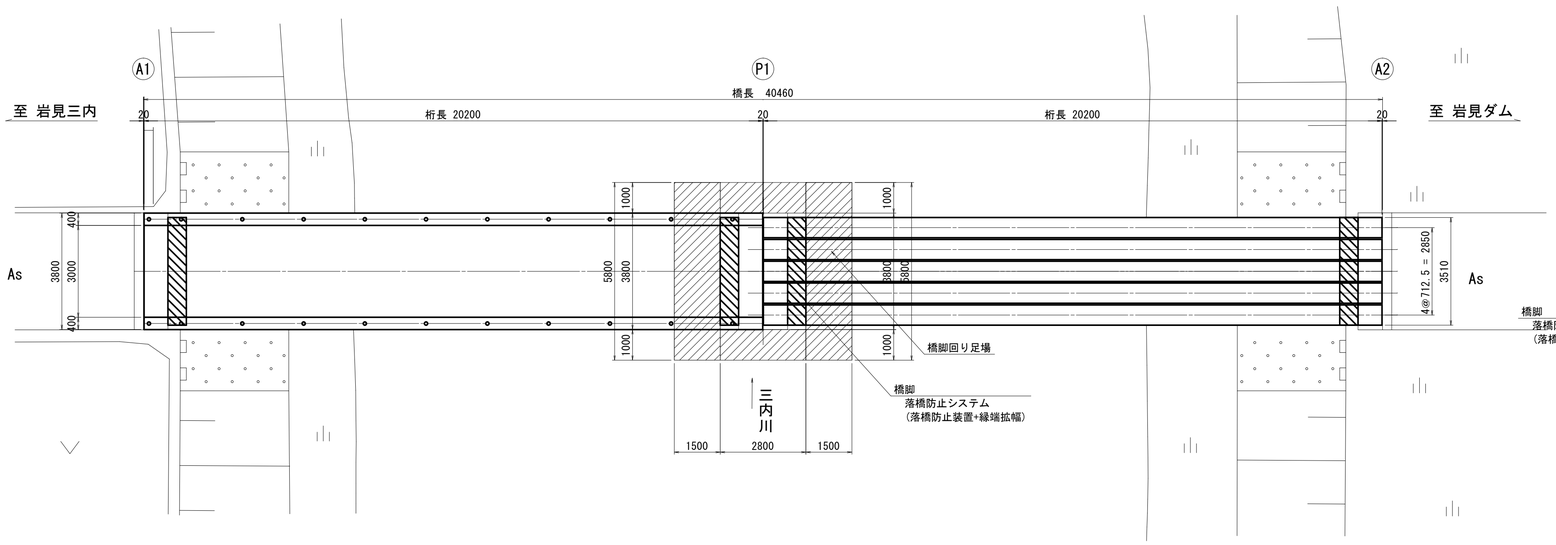
仮設工(その2)(参考図) S=1/100

〈足場工(橋脚回り足場)〉

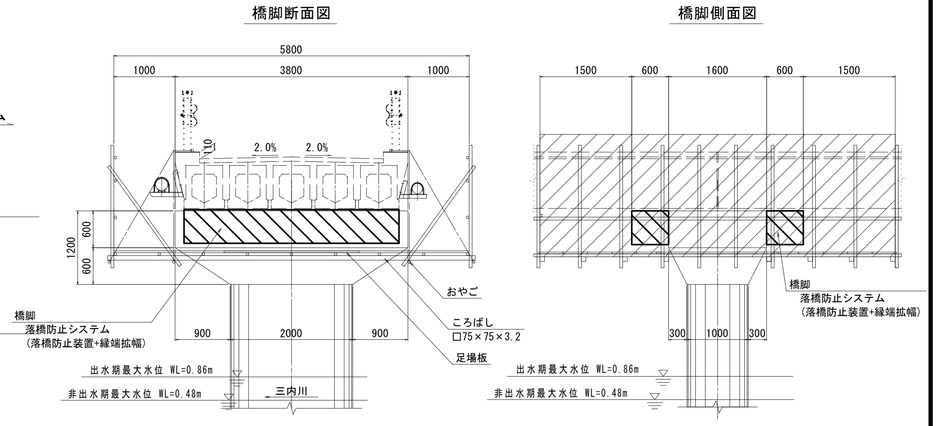
側面図 S=1/100



平面図 S=1/100



P1橋脚 S=1/50



※足場面積
・橋脚回り足場面積：As
As = (1.500m x 5.800m + 2.800m x 1.000) x 2 = 23.00m2

補修数量

工種	項目	規格 仕様	数量	
仮設工	足場工	橋脚回り足場	23.0	m2

年 度	令和 5 年度		
工事名	市道渡ノ波線 渡ノ波橋橋梁補修工事		
施工箇所	秋田市河辺三内字脇袋地内ほか		
図面名	仮設工(その2)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	11 / 11
秋田市建設部道路維持課			

様式１

質問および回答について

１　工事番号　　道橋修　第13号

２　工事名　　市道渡ノ波線　渡ノ波橋橋梁補修工事

３　入札書締切日　　令和　6　年　3　月　22　日（ 金 ）

４　質問・回答

(1) 質　問　　本設計図書に対する質問は、以下のとおり行うものとします。

ア　提出期限　　令和　6　年　3　月　18　日（ 月 ）　午後０時（正午）まで

イ　方法　　入札参加資格を有する者で、質問のある者は、内容を簡潔にまとめ質問書（様式集より）に記入のうえ、電子メールでのファイル添付にて、４(1)エの提出先に提出してください。
なお、口頭や電話での受付は行いません。

また、電子メールでの提出に際し、件名を「質問書」としてください。
当該電子メールにて到着確認のメールを返信しますので、返信がない場合は、速やかに下記の提出先まで連絡してください。

ウ　質問書様式　(工事・委託共通)入札・見積関係様式ページ内【設計図書に対する質問書】

https://www.city.akita.lg.jp/jigyosha/kouzi-nyusatsu-keiyaku/1002629/1010652.html

エ　提出先　　秋田市建設部道路維持課

[電話]018-888-5751　[E-Mail]　ro-csmt@city.akita.lg.jp

(2) 回　答　　質問への回答は、以下のとおり行うものとします。

ア　回答期限　　令和　6　年　3　月　19　日（ 火 ）

イ　方法　　回答は、質問者の特殊な技術やノウハウ等に関し、質問者の権利、競争性の地位、その他正当な利益を害する恐れのあるものを除き、下記ホームページへ掲載します。
回答では、質問者の企業名等は公表しないものとします。

ホームページ（回答の掲載）
https://www.city.akita.lg.jp/jigyosha/kouzi-nyusatsu-keiyaku/1002625/1010228/index.html